

児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

指定校番号	28001	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂小学校	校長	三吉 学	生徒指導主事	細田 和夫
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『にじいろ集会～異学年集会～』

取組のねらい『自発的・自治的な活動をめざして』

異年齢集団による児童会の自発的・自治的な活動を多く設定することによって、高学年のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。

取組の具体的内容『ペア学年でスタート』

昨年末、児童会でみんなが親しみやすく、楽しく活動できそうな呼称を考える。その中から「にじいろ集会」を選び、スタートする。

- ① ペア学年を設定する。1・6年（4クラス）、2・4年（4クラス）、3・5年（3クラス）とする。
- ② 名簿を作成する。同じクラス数のときは、原則同じクラスとペアになる。
1グループ6名程度（1年生3名＋6年生3名＝グループで6名）1クラス3名程度の中に、男子も女子も入れる。グループ名は、「クラスーアルファベット」とする。（1組のAグループ＝1-A）5月の初めまでに名簿を作成する。
- ③ 活動場所は体育館とする。
- ④ 集会日は「にじいろ集会週間」を設け、その週間の水・木・金曜日とする。
水曜日1・6年集会 木曜日2・4年集会 金曜日3・5年集会
時間は8：25～8：35の朝会時間帯とする。
- ⑤ 内容は年間5回 5月：自己紹介 6月：平和集会に向けて折り鶴を折る。
9月ゲーム：11月長縄 1・2月：ゲーム
※9月からの集会は、内容を児童同士が話し合い、決定できるようにしていく。
- ⑥ 展開は児童会が委員会の時間に次回の異学年集会の原案を作る。代表委員会で内容を伝える。
4・5・6年生が中心となって集会を進行する。（司会は、学年で話し合っって学年の実態に応じて決定する。



取組の課題・創意工夫 『リーダーとメンバー ～相互のつながり～発展』

- 上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、「学校の中で友達を増やすことができた」という評価の一方で、他のメンバーの力を伸ばすまでには至っていないという課題があげられた。
- リーダーとメンバーの相互のつながりを今後は伸ばしていきたい。
- 「にじいろ集会」で育んだ相互のつながりを何か他の活動場面でも生かせるようにしていきたい。(例えば、平和集会、きらきら挨拶ウイーク、もくもくそうじ等)

取組の成果（効果）『自己存在感・自己有用感あり』

- 『異学年と一緒に活動することで、上学年の児童はリーダーとしての力をつけ、学校の中で友達を増やすことができた。』という教師の見取りでは、80%が達成できた。20%が少しは達成できた。
- ペア学年（2学年）で取り組んだことで、活動場所と活動時間がコンパクトになり無理なくできた。スモールステップで進めることができたのが良かった。
- ペア学年で取り組んだことで、上学年の児童が自身の立場や責任感をより強く感じるようになった。
- 下学年の児童から「必要とされている」と感じる事が、上学年の児童にとって、とても嬉しいものであり、自己存在感・自己有用感を感じる事ができた。
- 活動を重ねるごとに児童が自発的に行動する姿が多く見られるようになった。



今後の展開『縦割り集団の拡大』

異学年交流は、児童の自己存在感・自己有用感を育成していく上で大変効果的であると言える。しかし、本校の規模（児童数：720名 1学年3組～4組）の場合、いきなり1～6学年の縦割り集団を作り、活動しようとする、グループ作成、活動場所で無理があった。ペア学年からスタートしたのは、良い方法であるが、今後どのように展開・発展させるかが大きな課題である。

他校へのアドバイス『継続が重要』

本年度からスタートした異学年交流を来年度以降も継続していきたい。現在の1年生が最高学年の6年生になる6年後まで継続することが望ましい。なぜならば、児童一人一人が、世話をしてもらった立場の1年生から世話をするリーダーの立場になるまでを経験することが大切である。

指定校番号	28002	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立東浄小学校	校長	福島 誠	生徒指導主事	前田 佐織
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『みんなで遊ぼうクイズラリー』

取組のねらい『友達の輪を広げよう』

全校みんなで児童会行事をすることで、他学年との交流を深め、友だちの輪を広げる。

取組の具体的内容『児童の児童による児童のための児童会活動』

5種類のゲームと25問のクイズをチームで解き、ポイントを競い合う。

後日、運営委員が採点し、放送で結果を発表する。ゲームの内容や準備は運営委員会が計画し、クイズは運営委員会が7問、各クラスが1問ずつ考える。

今年のゲームは、ハンバーガータワー、フリースhoot、ものあてゲーム、ジェスチャーゲーム、くつひも結びチャレンジがあった。異学年交流として、1年生は6年生、2年生は5年生、3年生は4年生とチームを組み、1チーム約8名のグループを作って行う。



取組の課題・創意工夫『見通しをもった取組』



クイズラリー当日までに2回、顔合わせの会が計画されている。自己紹介やメンバー表、名札作り、ゲームの回り方や役割分担などの作戦会議を行った。しっかり顔と名前を覚え、当日は、高得点を目指して頑張ろうと励ましあう機会となった。また、給食時間に、ゲームのやり方やルールを運営委員会の児童がビデオで紹介し、共通理解を図る工夫をした。当日は、混雑を防ぐため、スタート場所を2箇所設けた。迷子コーナーも設置したが、迷子になる児童はいなかった。このことから、どのグループもチームワークをもって活動できたと感じた。今後は

この異学年グループを別の活動に生かしていくことが今後の課題である。

取組の成果（効果）『自信を持たせる児童会活動』

「クイズで分からない問題を、6年生に教えてもらった。」と喜んでいる1年生や、「下学年に対して優しく接することができた。」と満足した様子の児童が大勢いた。また、「励ましてくれたり、意見を聞いてくれたりしたことが嬉しかった。」という意見も出た。児童一人一人の表情からは、満足した様子が伺えた。

異学年交流により、下学年児童は上学年児童からいい影響を受け、上学年児童は下学年児童へ支援することで

自己有用感を増す機会となったと考える。また運営委員の児童も計画から実行、振り返りを行うことで、ゴールを意識し、見通しをもって活動することができた。児童会を中心に活動を行うことで、児童が自ら考え、計画し、実行する力を養う絶好の機会となったと考える。児童が主体的に活動していることを感じ、自信をもつ場を設定し、自尊感情を育む機会となったと考える。



今後の展開『児童会活動から学年・学級活動へ』



このような児童会活動を今後も継続していきたい。運営委員会だけでなく生活委員会、体育委員会など各委員会が中心となり、学校を元気に明るくする活動を行っている。このような取組を参考にし、学年や学級単位で、児童自らが計画し、運営する機会を増やし、成功する喜びや満足感、失敗から学ぶ経験を積み、次回につなげていく力や意欲につながる取組を広げていきたい。

他校へのアドバイス『継続していくことで学校の文化に』

学年の枠組みを超え、異学年交流を行うことを通して、共感的人間関係を作っていく取組となり、児童同士の仲間意識を育む場ともなる。この取組を継続していくことが学校の文化を作っていくことにもつながると考える。



指定校番号	28004	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立草津小学校	校長	関本 宏	生徒指導主事	志田 あすか
-----	-----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『縦割り班集会』

取組のねらい 『異学年交流』

- ・ 縦割り班活動を通して、異学年の交流を深め、楽しく活動できるようにする。
- ・ 異学年のグループで協力して問題を解決することで、リーダーシップとフォロワーシップの育成を目指す。

取組の具体的内容 『ウォークラリー』

<準備>

- ・ 縦割り班の名簿を教員が作成する。
- ・ 1年生と6年生は、遠足などで活動したペアになるようにする。
- ・ 集会委員会が、高学年から低学年まで楽しめるゲームを考える。

<縦割り班会議>

- ・ 縦割り班集会より少し前に、縦割り班会議を開き、メンバーの確認をする。
- ・ メンバーで自己紹介をしたり、名前を覚えるゲームをしたりする。

<縦割り班集会>

- ・ 各グループが会議をした教室に集まり、テレビを使つての開会式の後、校舎内をグループで回り、各教室でのゲームにチャレンジする。
- ・ ゲームにチャレンジして、条件をクリアするとポイントがもらえる。
- ・ ポイントがたまると、校長先生とじゃんけんができる。



取組の課題・創意工夫 『みんなが楽しめる』

- ・ ゲームの内容は、集会委員が考え、準備をする。
- ・ 同じゲームの会場を3つ設ける。そうすることで、どのグループもすべてのゲームに取り組むことができる。
- ・ 2時間目と3時間に行うことで、遅刻の児童も参加しやすくなる。
- ・ すべてのゲームを各階に設けることで、車いすの児童も楽しめるようにする。

取組の成果（効果）『リーダーシップ』

- ・集会委員会の児童がゲーム会場を受け持つ教員に事前に説明することで、責任をもってルールを考えたり、準備をしたりすることができた。
- ・異学年のグループをまとめることで、高学年のリーダーシップを育てることができた。

今後の展開『つなげる』

11月の縦割り班集会のためだけの縦割り班になっている。早い時期に縦割り班を決め、いろいろな行事で縦割り班活動を設けることで年間を通した異学年交流ができるのではないかと考える。

他校へのアドバイス『目的』

学年に応じた異学年交流をする目的を教員が共通理解をしていくことでただゲームを楽しく行うことだけに終わらないと思う。縦割り班集会の前後に目的意識を児童自身にもたせる手だてをすることでより効果が上がっていくと思う。

指定校番号	28005	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立真亀小学校	校長	水迫 壽則	生徒指導主事	原田 裕
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい 『人の喜びを素直に喜ぶことのできる子どもを育てる』

たてわり班活動の通年導入により、異学年交流をもち児童同士の関わり合う場を広げる。また、主に高学年の児童に関しては、人の役に立つ喜びを味わわせ、自己肯定感を育て、低学年、中学年の児童に関しては、高学年の児童を憧れに感じて、見習おうとする気持ちを育てる。

取組の具体的内容 『関わり合う楽しさが感じられる活動』

5月 (顔合わせ&班遊び)
これから一緒に活動していくメンバーを知り、班遊びを行って、これからの活動に期待を持たせる。



6月 (たてわり班転がしドッジボール大会)
体育委員会企画のもとで転がしドッジボール大会を行い、各班で協力したり、声をかけ合ったりして、たてわり班の仲をさらに深める。



6月 (非行防止教室)
小学生に多い非行をテーマにした教員の劇を通して、「何がいけないのか」「どうすれば良いのか」ということを各班で意見を出し合う。



2月 (卒業おめでとう集会)
サブリーダーの5年生を中心に卒業おめでとう集会を行い、今までリーダーとして引っ張っていったくれた6年生に感謝の気持ちを伝えるとともに、たてわり班活動の1年間を振り返る。



7月 (平和集会)
計画委員会企画のもとで平和集会を行い、平和の歌を歌ったり、鶴を折ったりする活動を通して、平和について各班で考える。



9月 (たてわり班ゲーム大会)
たてわり班ゲーム大会を行い、各班で協力したり、声をかけ合ったりして、たてわり班の仲をさらに深め、自己有用感を高める。



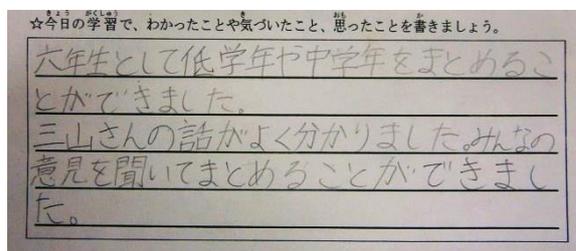
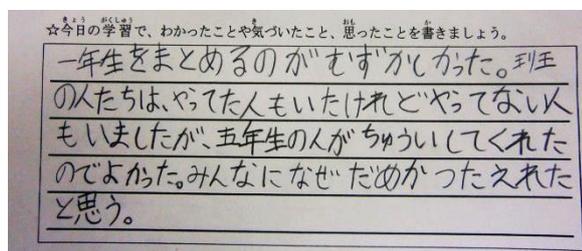
10月 (運動会でのたてわり班競技)
運動会の中でたてわり班競技を設けて、改めて協力の大切さやたてわり班活動の楽しさを味わわせる。



取組の課題・創意工夫 『集団支援的アプローチと高学年リーダー』

本校には、発達障害等特別支援教育的課題のある児童、問題行動や不登校等生徒指導的課題のある児童、両方の課題が重複している児童と、様々な実態の児童が混在している。また、自己有用感が低かったり、人間関係力が未熟であったりする児童の実態があるため、中学校区の「めざす子ども像」の一つに「豊かな人間関係を作ることができる子ども」を挙げている。これらのことから、児童個々の実態やニーズに合った適切な支援とともに、人との関わりを通じた活動が求められている。そこで、学校全体に目を向け、全児童への支援（集団的アプローチ）として、望ましい関わり合いを通して、自己肯定感が得られる行事・活動である通年のたてわり班活動を導入している。

なお、たてわり班活動がより良い活動になるためには、高学年の存在、特に六年生が必要不可欠である。それぞれの活動前には、学年や委員会を通して、事前に意識づけを行っている。活動によっては、事前学習会を行う等もしている。（例えば6月の非行防止教室では、当日使用する教材を事前に6年生に実施し、当日のデモンストレーションを行う。事前に学習をすることが、当日下午級生に声かけをする際の手助けになっていた。）



一方、課題としては、振り返りの仕方が学校全体として統一されていない時があることである。児童にとって振り返りは、たてわり班活動のねらいに迫る大事な活動であり、それによって自分の中で「何が良かったのか」「どんな考えをもったのか」を価値づけていくことに繋がっていく。また、教員にとっては、児童一人一人の想いを知ることができ、今後のたてわり班活動の充実につながっていく。活動に合わせた振り返りの仕方を全校で統一することが必要なのではないかと考えている。

取組の成果（効果） 『役立ち感と憧れ』

異学年で活動することを楽しみにしている児童が多く、たてわり班活動以外でも声をかけあう様子が見られる。高学年は、下級生への声かけや班をまとめる活動を通して、責任感や自己有用感を得られており、下級生はそんなリーダーのことを慕い、積極的に関わろうとする様子が見られる。また、協力する活動だけでなく、班で考えたり、感じたりする活動もあるので、たてわり班での関わりがより深まっている。特に、6年生と1年生の繋がりが強く、たてわり班活動をきっかけとして日頃の交流がさかんになっており、学年同士での交流活動にも生かされている。たてわり班活動での人間関係が他の場面でも生かすことができるような取組になっていることが感じられた。

今後の展開 『振り返りの充実とねらいの再検討』

年々とたてわり班を中心とした活動が増えているので、それに伴って、きちんと振り返りを行うことが大事だと考えられる。感想カードを書かせたり、それを全体の場で紹介したりする等の方法で、たてわり班活動での学びを通して、自己有用感や達成感として残るようにしていきたい。また、高学年は自分の役目があり、低学年は高学年をお手本に頑張っているが、中学年に対する視点が少し弱い。各学年の発達段階を踏まえ、たてわり班活動における各学年のねらいを再検討していきたい。

他校へのアドバイス『リーダーとしての見通し』

6年生がしっかりしていると学校全体が落ち着いた雰囲気になることを今年度は特に感じた。たてわり班活動で、6年生が下級生に声をかけている様子を見ていると、とても良く頑張ってくれているなど思う。この活動を通して、自己肯定感や自己有用感が得られているから、一生懸命に頑張ろうとするのではないだろうか。活動はしたけれども、何も得ることが無かったとなってしまうと、リーダーの自己有用感には繋がらない。そこで、6年生がリーダーとして活動しやすいようにすることが重要である。本校では、6年生に対して、各活動の度に事前学習を行っている。これにより、まず、活動のイメージを持つことができる。活動のイメージを持つことで、不安感の解消や活動への期待感に繋がる。次に、リーダー自身がたてわり班活動のねらいを理解した上で、本番の活動に臨むことができる。たてわり班の活動にはねらいがあり、それをリーダーが理解することで、本番、自分がどう行動すれば良いのか考えることができる。最後に、たてわり班活動を行うためには、6年生の存在が必要不可欠であることを知ってもらうことができる。6年生は学校にとって、特別な存在であることを知ってもらうことで、たてわり班活動を一生懸命行うことに喜びを感じてもらえるようになる。このようにリーダーとしての見通しを持たせることが、たてわり班活動の充実に繋がると考えている。

指定校番号	28009	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島東小学校	校長	山崎 聡	生徒指導主事	見渡 英治
-----	------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい『キーワード 集団の中の一員としての意識』

- ・ 異学年交流での出会いを通して、人とつながる力を育む。
- ・ 集団の一員として活動することの楽しさを味わう。
- ・ リーダーとしての自覚を持たせ、活躍の場とする。

取組の具体的内容『キーワード 異学年交流で』

- ・ 4月 1年生を迎える会……………1年間、さまざまな活動を共にしていく1年生と6年生のペアを作る。6年生には学校の中のリーダーとしての責任感をもたせ、1年生には6年生と過ごすことで小学校での生活に慣れるための安心感をもたせる。



- ・ 6月 たてわり班顔合わせ会…1年間、さまざまな活動を共にする1年生から6年生で形成する班を作る。自己紹介と簡単なゲーム、たてわり班の旗の作成を行う。



- ・ 7月 おりづる集会……………碑前祭に供える千羽鶴をたてわり班で集まって折る。自分だけで折るのではなく、折り方を上学年が下学年を教えるなど、班という集団を意識して活動する。



- ・ 12月 校内ウォークラリー…たてわり班で協力し、ゲームをしたり課題を解決したりしながら、異学年での交流をする。リーダーである6年生を中心に回るコースを班員の意見を取り入れながら決めたり、みんなが楽しめるという目標が達成できるように班をまとめたりしながら活動する。



- 3月 6年生を送る会………1年間、リーダーとして班をまとめてくれた6年生に感謝の気持ちを込めて卒業を祝う。1年生から5年生は会場の飾りつけや準備をしたり、自分の班の6年生にプレゼントを作ったりする。

- 6月から3月まで………1年間を通じて縄跳び運動や東っこ体操などの業前運動や昔遊びや転がしドッジボールなどのグループ遊びなどをたてわり班で行う。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 機会の保障と安心感』

- 限られた授業時数の中から児童の活動時間を確保することの難しさは感じるが、たてわり班を使った活動を取り入れることにより得られる成果をより効果的にするためには、たてわり班と一緒に活動する機会の保障が不可欠となると考えた。そこで児童会活動を計画する生活部だけではなく、遠足や業前運動を計画する保体部など各校務部で計画する行事に意識的にたてわり班を活用するようにしてきた。その結果、たてわり班の児童が顔を合わせることが多くなり親近感を感じられるようになった。また様々な活動に協力して取り組ませることで連帯感が生まれた。
- リーダーシップを発揮しやすいように、各行事の前に6年生児童にオリエンテーションを行った。きちんと見通しをもたせることで6年生児童も安心感をもち、自信をもって下学年に接することができるようにさせた。行事が終わるごとに振り返りをさせ、見つけた改善すべき点を次回の活動に生かすことができるようにした。
- 異年齢、異性で構成するグループで活動することによって多様な考え方にふれさせることができるようにすることをねらって、たてわり班を組む時には、どの班も男女の比をできるだけ均等となるように組むようにした。
- 班をまとめることを大きな負担と感じてしまいやすい6年生児童には、いつも複数で対応できるように6年生が二人いる班に編成するなど、児童の実態に即した配慮を心がけた。また、配慮を要する児童については、担当になった教員が適切に対応できるよう事前に職員間で情報を共有し合った。

取組の成果（効果） 『キーワード 学年を越えたつながり』

- 1年間を通じて様々な活動を共に行ってきたことで、学年を越えて良好な人間関係を築こうとする意識はどの学年でも高まった。特に6年生はリーダーとしての自覚をもち、自分のことだけではなく、グループ全体のことを考えて声かけをしたり、行動したりすることができるようになってきた。また5年生は、来年度、自分たちがリーダーとなった時に、担う役割やグループをまとめる方法を6年生の姿を見ることで学び、明確にイメージすることができた。その経験を生かして年度終わりの活動では6年生と協力して班をまとめる姿も多く見られた。たてわり班活動を行っていない時でも、校内で出会えば声をかけたり、自ら率先して遊びに誘ったり、困っていたら助けたりということができるようになってきている。自分のことだけではなく、周りに意識を向けることができる児童が増えてきたように感じる。

- ・ たてわり班活動を行うことは児童だけではなく、教職員も多くの児童とかがかわることができる良い機会となった。学校全体ですべての児童を育てていこうという教職員の意識も大きく高まることにつながったと感じる。

【たてわり班活動についての児童の感想】

- あまり話したことの無い人と話すことができ楽しかった。
- 上手くいかなかった時に班の人がなぐさめてくれた。
- 高学年の人が分かりやすく教えてくれてうれしかった。
- 迷子にならないように、6年生が手をつないでくれてうれしかった。
- 6年生だけでなく、5年生も班をまとめてくれた。

【児童会によるアンケート結果】

- | | | |
|--------------------------|-----------|-----|
| ① 班で仲良く活動できた…………… | 369人／491人 | 75% |
| ② 班のみんなと協力することができた…………… | 448人／491人 | 91% |
| ③ みんなが笑顔で心があたたかくなった…………… | 416人／491人 | 84% |

今 後 の 展 開『キーワード 反省と改善』

- ・ 今年度取り組んできたたてわり班活動は、高学年のリーダー性の育成や、学年の壁を越えての良好な人間関係づくりの確立というねらいを達成するために非常に有効であったと感じる。
- ・ これまで継続して行ってきたたてわり班活動は、多くの児童の今年度の取り組みの反省を活かしながら来年度も取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画と見直し』

- ・ 行事の精選、またその内容の見直しをしていくことの必要性にせまられている中で、年間を通じてたてわり班を使った活動を行事の中に取り入れていくことの難しさを感じる。またリーダーとしての自信をもって取り組ませるためには、事前にリーダーとしての心構えや活動の流れなどが分かるようにオリエンテーションを行うことが欠かせない。少ない機会の中で大きな成果をあげるためには、たてわり班活動の取り組みに対する明確なビジョンを教員がもって児童への指導をすることが必要不可欠であると感じる。

指定校番号	28011	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立竹屋小学校	校長	尾形 慎治	生徒指導主事	里本 孝文
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

取組のねらい キーワード『異年齢グループ活動』(異学年交流)

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

取組の具体的内容 キーワード『年間を通して』

<竹屋っ子グループ> (縦割りグループ) での活動

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

- 6月・・・折り鶴集会
- 7月・・・夏の集会
- 9月・・・クリーン活動
- 12月・・・冬の集会
- 随時・・・体育的集会



<異学年交流>での活動

- ・1・2年の校内探検, おもちゃ祭り
- ・2・3年, 4・5年, 5・6年での学習紹介や引き継ぎ
- ・すずかけ交流会 (1・2年, 3・4年, 5・6年)
 - ※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・遠足や運動会



取組の課題・創意工夫**キーワード『グループ作り』**

<課題>

- ・年度当初のグループ作りに手間がかかる。
(児童実態の把握, グループの均等性) 等
- ・グループ数に対して担当者(職員)の不足。
- ・活動場所や順序の計画。

<工夫>

- ・活動前の「事前学習」「ねらいの明確化」、活動後の「振り返り」や「評価」をしっかりと行うことで、さらに効果が上がる。

取組の成果(効果)**キーワード『関わりの中で育つ』**

- ・全校児童が顔見知りになる。
- ・上の学年にとっては、自尊感情が揺さぶられ、自主性やリーダー性が育つ。
- ・下の学年にとっては、上の学年に憧れ、今後の見通しや、学習意欲の向上につながる。
- ・互いを意識し、尊重し、思いやる気持ちが養われる。
- ・地域の行事(三世代交流行事「とんど」「夏祭り」「ハゼ釣り大会」)等にもつながっている。

今後の展開**キーワード『継続と見直し』**

- ・活動が定着していくために、職員が意識統一して引き継ぎ、継続していくことが大切。
- ・マンネリ化を防ぐために、ある程度固定した活動内容や場面についても、常に見直すことも必要である。

他校へのアドバイス**キーワード『異年齢(異学年)交流』**

- ・準備や計画は大変だが、異年齢(異学年)での活動は、上学年児童にとっても下学年児童にとっても得られる効果が大きい活動である。また、学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても、大きな役割を果たしている。また、学校や地域への愛着を育てることにもなっている。

指定校番号	28012	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立神崎小学校	校長	高西 実	生徒指導主事	栗原 良典
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『異年齢集団での交流を活用した 児童会活動の展開』

取組のねらい『育む“人とのつながり”と“自分の憧れ・志”』

「神崎班」という1年～6年を縦割りにした異年齢集団での交流を活用した児童会活動 によって

- ・学年や学級の異なる他者と楽しく触れ合い、交流を図ることによって児童同士のつながりを深め、望ましい共感的な人間関係を育成します。
- ・学年や学級のほかにも、信頼し合い協力し合おうとする自分の居場所ができることで、児童に自己存在感を与えます。
- ・班の中での役割や相互のかかわりを通して、高学年は自覚や自信を高めるとともに、低学年も上級生への憧れや自身の目標をもつことができるようになります。



取組の具体的内容『“児童集会の活用”と 交流を深めるための 諸活動』

①児童集会での「神崎班」活動

【折り鶴集会】

…7月に平和教育の一環で、「神崎班」ごとに輪になり、千羽鶴を一緒に折ります。この集会では、委員会児童による朗読劇も行われます。児童会活動に参加する中で、異年齢での交流はもちろん、平和についての考えを一人一人が深めていくことも大切な目的となっています。



【神崎っ子集会】

…「神崎班」で協力し、校内の10個のゲームをクリアしていくオリエンテーリング大会です。チームワークを生かして、各「神崎班」でゲームを回り、高得点を狙います。



集会の進行は6年生の児童が前後半に分かれて行います。6年生がいない班は、その間5年生がリーダーとなって班をまとめます。



おさるでドボン!



くつとぼし

②交流を深めるための 諸活動

児童集会が「ただ一緒に活動をしただけ」にならないよう、事前にお互いのことを知り、つながりを深めることを目的として、異年齢交流の機会を数多く設定しています。

【神崎班遊び】

異年齢集団の人間関係をより深めるために、ロング昼休憩を活用して一緒に遊びます。児童集会の前に、年4回行われます。



【ドッジボール大会】

低・中・高のそれぞれの枠組みで、学年混合のチームをつくります。休み時間も声をかけ合い練習し、本番ではチームワークを生かして試合に取り組みます。



【音楽朝会・全校合唱】



毎月の歌を各学年が持ち回りで代表となり、音楽朝会で発表します。それぞれの練習の成果を披露するとともに、全校児童で合唱します。練習の過程では、異学年との合同学習も行っています。



取組の課題・創意工夫 『異年齢で育む“つながり”と“自分の在り方”』

・どのような活動においても、「目的意識をどうもつか」が大切です。せっかくの異年齢集団での交流を、「一緒に遊んで関係を深める」だけで終わらせず、「その集団の中で、自分はどのように行動し かかわっていくか」を考える場につなげていくことを意図し、児童に働きかけています。

【「神崎班遊び」では…】



6年生を中心として、まず、何をして遊ぶかを話し合います。異年齢での話し合いを通して、上級生は下級生に対して思いやりの気持ちをもって接し、下級生は上級生に尊敬の気持ちをもって協力していきえるようにするなど、共感的な人間関係を築く態度の形成を図ります。

「他学年の相手にも自分の意見を言える、聞いてもらえる」という経験を通して、学年を越えた信頼関係をつくるとともに、児童の自己存在感の育成にもつながるよう意図して、児童に働きかけています。

【「折り鶴集会」では…】



6年生がリーダーとしての自覚を深めるとともに、その役割を効果的に達成できるようにするために、集会の前には6年生が1年生に鶴の折り方を指導する機会を設けています。その経験を生かし、当日の集会でも、6年生が率先して下級生にアドバイスをしています。6年生の姿を見ることで、その他の学年間でも自然と教え合いが発生するようになりました。

このように、活動中での様々な行動を通し、上級生は下級生を思いやる心や責任感を培っていきます。下級生もまた、上級生に対する信頼と憧れをもつことで、これからの自分の目標へとつながるよう取り組んでいます。



取組の成果（効果） 『“人とのつながり”や“成功体験”が“自信”と“夢”に』

全国学力・学習状況調査では、「学級みんなで協力してやり遂げ、嬉しかったことがある（県比+26.8%）」「学校に行くのは楽しいと思う（県比+10.8%）」「自分にはよいところがあると思う（県比+29.6%）」「人の役に立つ人間になりたいと思う（県比+11.9%）」などの項目に「当てはまる」と答えた児童が多いという結果が出ています。「基礎・基本」定着状況調査においても、「自分にはよいところがあると思う（県比+25.5%）」「将来の夢や目標は叶うと思う（県比+23.4%）」など、同様の傾向が見られます。

今後の展開 『より“主体的”に、児童が力を発揮できる児童会活動を目指して』

本校では上記の取組以外にも、様々な委員会が集会や日常の活動に対して工夫して取り組んでいます。今後も子どもたち自身が感じた学校の課題意識や、「もっと自分たちの学校をこうしていきたい!」といった要望を吸い上げ、それらをもとに児童会活動を展開していくことで、児童の自己決定の場を保障するとともに、自主的・実践的に活動する児童を育成していきたいと考えています。



図書委員による本の紹介劇

他校へのアドバイス 『“学校全体で取り組む”ことで生まれる力』

生徒指導の充実を考えていく上で、異年齢集団による交流は、大きな成果につながる取組の一つだと感じます。また、児童会活動と関連させながら展開することで、さらに児童の自己指導能力の育成を図ることができると考えられます。しかしその目的を達成するためには、教員の適切な働きかけが必要であることも確かです。児童に投げっぱなし、担当教員に任せっぱなしでなく、学校全体で目的意識を統一し、多くの目と手で、協力して児童を支援することが大切であると思います。

指定校番号	28015	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長	岸保 仁司	生徒指導主事	笹原洋平
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『年間を見通したたてわり班活動』

取組のねらい『キーワード リーダー性と学年間を越えた密な関係』

- ・ たてわり班活動により、高学年の自治活動を促し、リーダー性を養う。
- ・ 年間を見通した計画を立て、切れ目のない活動を意識することで学年間を越えた密な関係を養う。

取組の具体的内容『キーワード 年間を見通した活動』

- ・ 全職員によるたてわり班打合せ
- ・ たてわり班遠足



- ・ たてわり班での運動会競技



- ・ 校内文化的行事において、たてわり班ごとの出店



- ・ これまでお世話になったリーダーへのたてわり班感謝の会

年間予定	
月	内容
4月	たてわり班編成会
5月	高学年リーダー会 遠足（親睦的行事） 高学年リーダー会 2 運動会（体育的行事）
6月	高学年リーダー会 3 おりづる集会 （児童同士によるおりづるの 折り方の教え合い）
9月	授業でたてわり班で道徳的価値について考え共有する
12月	高学年リーダー会 4 プラタナス集会子どもの日 （文化的行事）
2月	卒業を祝う会（リーダー引き継ぎ）
3月	たてわり班感謝会

取組の課題・創意工夫『キーワード 切れ目のない活動にするために』

・ 年度当初のたてわり班打合せでは、兄弟関係や人間関係を考慮して、全教職員参加でたてわり班編成を行い、情報共有を行った。たてわり班で行事を行う際は、事前に、高学年だけのリーダー会を設け、5・6年生は、たてわり班で活動する目標を考えたり、みんなが楽しめるにはどのようにすればいいか話し合ったりした。また各行事をやりっぱなしにしないよう毎時間ふり返りを行い、児童は自身でどのような力が付いたのか、今後の活動を見通してどうしていきたいか等考えた。さらに、考えたことを学級やたてわり班全体で発表し、共有することで活動の継続性を高めていくことができた。

取組の成果（効果）『キーワード リーダー性の高まり・学年を越えた関わり』

- ・高学年はリーダーとしての意識が高まり、たてわり班活動を経て下学年への関わりや声かけ等、日に日に上手くなる様子が見て取れた。
- ・児童の自治意識の変容が見られ、児童には自分たちで行おうとする意識、問題に対して自分たちで何とかしようとする態度の高まりが感じられるようになった。
- ・低・中学年でも自分の得意な場面では、他学年の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい。」という思いを抱くことができるようになってきた。またクラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

今後の展開『キーワード バトンタッチ』

- ・来年度に向けて6年生の姿を見てきたサブリーダーである5年生が、今まで6年生が行ってきた活動を引き継ぐ。6年生は朝会の集合確認やたてわり班の会の進行などのリーダーとしての仕事を、5年生に引き継ぐことで、5年生は最高学年として、6年生は卒業式へ向けて意識を高めていく。

他校へのアドバイス『キーワード ふり返ることの大切さ』

- ・切れ目のない年間を見通した活動とするために、ふり返りを大事にしてきた。毎時間ごとにふり返りを行い、行事が終わるときもふり返りを行ってきた。そして日々の生活や次の活動にどのように繋げていくのか考え、学級やたてわり班で共有することで、児童は1つ1つ事柄を結びつけながら考えられるようになってきた。

指定校番号	28016	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音小学校	校長	三上正浩	生徒指導主事	別府正己
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『児童会活動（冬の集会）』

取組のねらい『キーワード：児童のかかわり』

- 児童のより良い集会にしようとするモチベーションを高め、進んで活動する態度を育て、達成感をもたせる。
- 異学年の児童がかかわり合いながらコミュニケーションをとったり、協力したりする。
- 上学年児童は、活動の計画やゲームの運営、グループをまとめることで、思いやりの心を育て、リーダー性を養う。下学年児童は上学年児童の姿勢を見習い、好ましい態度や考え方を身につける。

取組の具体的内容『キーワード：楽しむ』

冬期に、計画委員会（児童会）が主催して、全校児童が寒さを吹き飛ばすための集会をする。内容は、縦割り集団でクイズ・ゲームラリーをする。縦割り集団で多くのコーナーを回り、協力し、かかわり合いながらポイント集めを楽しむ。

下学年の各学級は、その学級に関係するクイズを 2 問考えて掲示する。

上学年は、学級毎でゲームを計画し運営する。

また、各委員会はそれぞれの活動に関するクイズを 2 問考えて掲示する。



回る順番を検討中

取組の課題・創意工夫『キーワード：全員参加』

児童会活動に、縦割り集団の活動を取り入れることで、児童相互の理解を深め、上学年児童の思いやりの心やリーダー性を育てることができる。また、下学年児童が上学年児童の好ましい態度を見習うことで、観音らしさが継承されていくことも考えている。

その他にも、全ての児童と教師が企画面や運営面でもかかわることができるように、時間の確保の工夫もしている。

先生とジャンケンをして得点を得るゲーム



取組の成果（効果）『キーワード：生徒指導の三機能』

この児童会活動を通して、上学年児童は活動をやりきることで達成感や充実感を味わうことができた。さらに、下学年児童のお世話をすることで優しさや責任感をもち、リーダーとしての風格が育ってきた。下学年児童は上学年児童の態度や行動を見て学び、憧れを抱き、親近感をより深め、併せて規範意識も育ってきている。

学校生活の場では、異学年児童に親しく声をかける姿が見られたり、放課後一緒に遊ぶところを見かけたりすることができ、児童間の相互認知、相互理解は高まった。



ゲームの説明を聞く



ゲームに挑戦中

今後の展開『キーワード：規範意識の広がり』

縦割り集団の活動は、児童会集会や全校清掃、縦割り遊びでも行っており、児童の中にグループ内の仲間意識は定着してきている。今後、リーダーとして活躍した6年生とのお別れの際に、在校生は、これまでのお返しとして、心のこもったペンダントや歌、演奏をプレゼントすることを考えている。

また、校内にとどまらず地域でも、気軽に声をかけたり、お互いの存在を意識し合ったりすることで、共に刺激し合い、規範意識の定着や広がりを期待している。



ゲームを運営する側も工夫して楽しそう



楽しそうな児童の表情

他校へのアドバイス『キーワード：ペア』

縦割り集団の活動は、6・1年、5・3年、4・2年のペアで活動することもある。上学年児童はペア集団のリーダーとして活動を上手くまとめており、そのことが大きな集団への移行をスムーズにしている。

指定校番号	28019	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	梅林小学校	校長	中西 浩二	生徒指導主事	通地 正博
-----	-------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『梅林祭』

取組のねらい『楽しい学校生活を送ろう』

- ・2年生から6年生までは、「梅林祭」の取組を通して、クラスが協力し、一つのことを成しとげること
で、新しいクラスの結びつきを深め、学校生活の楽しさを味わう。
- ・1年生は、お客さんになっているいろいろなクラスを回る活動を通して、小学校生活の楽しさを味わい、新
しい友達と仲良くなる。
- ・たてわり班で「店」を回ることで、異学年交流を図る。

取組の具体的内容『協力して出し物を行い、みんなで楽しもう』

5月25日（水） 各クラスの「店」の内容提出（学年で内容が重ならないように調整）
 6月 9日（木） 児童朝会（顔合わせ・回る順番決め）
 5月30日～6月16日 各クラスで「店」の準備
 6月17日（金） 梅林祭 1～3校時
 場所 開閉会式は体育館 活動は各クラス
 内容 たてわり班で回る（1グループ5～6人）
 2～6年・・・「店」を出す ※店番・客を前後半で交代
 1年生・・・客として、各クラスを回る
 たんぽぽ学級・・・交流学級で店番に参加 客として回る



取組の課題・創意工夫 『クラスの結びつきを深め、新しい友達と仲良くなるよう』

課題

- ・異学年交流を充実させるためのたてわり班の作り方をどのようにするか。
- ・出し物の準備から当日の運営までのクラス全員での取り組み方。
- ・たくさんの「店」を回ること。

工夫

- ・男女均等になるように異学年のグループ（たてわり班）を作り、1年生は前後半違うメンバーの上学年と回ることを通して、たくさんの上学年と交流を行う機会を作った。
- ・各クラス、昨年度までの出し物を参考にして、自分たちで話し合いを行い、何の「店」を出すのかを決めた。また、「店」の名前書きやポスター作り、「店」の準備、当日の店番などをクラス全員で分担して行うようにした。
- ・短時間に回るために、「店」の出し物を1人ずつではなく、大人数でできるような出し物を工夫した。

取組の成果（効果） 『楽しく活動できた』

児童の感想より抜粋

- ・グループのみんながやさしくしてくれたので、うれしかった。
- ・5、6年生が先に行かせてくれたり、教えてくれたりしたので、楽しかった。
- ・お店を出すための準備はクラスみんなで役割分担をして、協力してできた。
- ・店を出る時に、「楽しかった」と言ってくれる人がいてうれしかったし、やったかいがあるなど思った。
- ・同じことを一緒にすることで、違う学年の人たちと仲良くなれた。

12月に行った学校評価アンケートでも、仲間と共に楽しく活動できたという項目は90%、思いやりの心を言葉や行動で伝えるという項目でも92%の児童ができたと評価している。「梅林祭」の活動を通して、学級への所属感や思いやりの心が育ってきていると思われる。

今後の展開 『継続した取組』

- ・「梅林祭」だけではなく、月に1回「梅林遊ぼうデー」を設け、昼休憩を長くして全員遊びを行うことにしている。また、クラス対抗の綱引き大会や長縄跳び大会が計画されており、当日だけではなく、練習からクラス全員で取り組んでいき、クラスの一体感を味わわせるようにさせていく。
- ・登校班では、5・6年生が班長、副班長になり、下の学年が安全に登校できるように指導させるとともに、下の学年も班長、副班長の指示に従うようにさせている。また、児童朝会でのたてわり班活動でも、他の学年に対しても、思いやりのある行動をするように指導していく。

他校へのアドバイス 『継続させていく』

- ・クラスの絆を深めていくための活動は、日々の活動の中でも取り入れられていると思われる。それだけではなく、特別に仕組んでいくためには、他の行事と重ね合わせて考えるなど、計画的に取り入れていくことが大切である。また、子どもたちに目的意識を持たせながら、活動させていくことも重要である。
- ・梅林小は登校班だけではなく、遠足、梅林祭、児童朝会など年間を通して異学年交流を継続して仕組んでいる。継続することによって、他の学年に対して、思いやりの心も育ってきていると考えられる。

指定校番号	28021	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立 亀崎小学校	校長	和田 麻里子	生徒指導主事	石田 葉子
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『亀っ子そうじ』

取組のねらい『キーワード なかよく 協力』

- 異年齢の友達とも仲良く行動する。
- 学年に応じた役割を考えて、協力してそうじに取り組む。

取組の具体的内容『キーワード みんなの中での役割』

- 縦割りグループ（7～8名）を編成。
- 縦割りグループの活動は、年6回。（スタンプラリー、おりづる、清掃）どの活動もだれとでも、『なかよく協力』して活動を楽しむことを一番の目当てにする。
- 夏休み、冬休み前のワックスがけ前に、割り当てられた場所を、縦割りグループで特別にきれいにする。（年2回）
- 『そうじの手順表』を作成し、「誰が 何を使って 何をする」という清掃の手順が分かるようにする。

12月6日
かめっこそうじ

そうじの目標
①全員でそうじをする
②そうじ道具を大切に使う
③後片付けをする

今日の流れ
15:00 始めの会
そうじ20分
音楽が鳴ったら体育館へもどる
終わりの会

もとの位置にすわりましょう
そうじ道具もグループで
持っておきましょう

振り返りタイム
★6年生が司会・記録
★感想や気持ちをたくさん書こう

10	3F南手洗い場	手洗い場(たわし) 1・2・6年	タイル(アクリルたわし・下雑巾) 3・4・5年	藤田	
11	北脱靴場の①	ほうき 1・6年	くつ入れ(ミニほうき) 3・4年	かさ立て 2・5年	白石
12	北脱靴場の②	ほうき 1・6年	くつ入れ(ミニほうき) 3・4年	かさ立て 2・5年	白石
13	南脱靴場の①	ほうき 1・6年	くつ入れ(ミニほうき) 3・4年	かさ立て 2・5年	下村
14	南脱靴場の②	ほうき 1・6年	くつ入れ(ミニほうき) 3・4年	かさ立て 2・5年	下村
15	職員玄関	ほうき 1・6年	スリッパ入れ(下雑巾) 3・4年	す板(下雑巾) 2・5年	校長
16	体育館(下窓)	モップ 1・6年	ビカビカ棒&下雑巾 2・3・4・5年		教頭
17	1年1組	ほうき 1・6年	下ぞうさん 2・3・4年	黒板・上ぞうさん 5年	植田
18	2年1組	ほうき 1・6年	下ぞうさん 2・3・4年	黒板・上ぞうさん 5年	原

教室そうじの方法

ほうき 1・6年 下ふんじん 2・3・4年 両足・上ぞうさん 5年

黒板にそってほうきで
はく。

黒板の上から下にむけて同じ
できれいにする。

パケンを片付ける。

黒板のまんの部分のチョーク
を拭き落とす。きれいにして、ま
とりでとる。

ほうきではいたところを
ふんじんをふく。

★木固にそって
上ふんじんをふく。

つくえを全員で前に運ぶ。(学年は2人で運ぶ)

後ろをほうきではく。

ほうきではいたところを
ふんじんをふく。

つくえを全員でもとの位置にもどす。(学年は2人で運ぶ)

いすを片付ける。

上ふんじんをふく。

ロッカーの整理整頓をす
る。

パケンを片付けて、ふんじん
をふく。きれいに片付けてと
める。

取組の課題・創意工夫『キーワード なかよく 協力を実感するために』

- 「だれが 何を使って 何をする」を明らかにし、そうじの手順表、必要な掃除用具をグループごとにセットした。→どのグループも集まって、高学年が役割を確認した後、すぐに掃除にとりかかることができた。
- 全校で時間割をそろえ、授業時間の中で、全職員が指導に当たることができるように、年間を見通して活動を計画した。
- ▼児童は時間の中でスムーズに活動できたが、そのための準備は、そうじ場所の選別、掃除用具の仕分けなど、大変煩雑で時間がかかった。シンプルにしていきたい。
- ▼児童だけでは活動が進まなかったり、トラブルへの対応が難しかったりするなど、教員の目が届ききらないことがある。高学年がリーダーシップを発揮できるようなフォローがまだまだ必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 高学年のリーダーシップ』

○そうじの手順表があり、「誰が 何を使って 何をする」が明確になっているので、ふり返りでは、「グループのみんなが力を合わせてそうじをした（90%以上 16 グループ，80%以上 7 グループ）」、「自分の役割の仕事をした（90%以上 21 グループ，80%以上 3 グループ）」と、縦割りグループでそうじを行ったことに達成感をもっていた。（全 24 グループ）

○低学年と高学年がペアになって役割の仕事を行う中で、高学年はやり方を説明したり、手をとって一緒にやったりする姿が見られた。6年生も自信をもって指示することができた。



○ワックスがけ前の特別なそうじを、縦割りそうじに当たったことで、児童ははりきって行き、仕事を見つけ、「きれいにした」という満足感を味わっていた。



〈グループのふり返りから〉

○とてもきたなかったのがやりがいがあった。きれいにして気持ちよくなった。（手洗い場）

○ほこりや砂がたくさんとれた。汚いところがきれいになり、すみずみまでできた。（脱靴場）

○ほこりがいっぱいあって、びっくりした。きれいになって、すっきりした。（玄関）

○手が汚れたけど、すみがよくとれて、きれいになった。（書写教室）

今後の展開『キーワード 自分達で』

・縦割りグループでは、昨年度から行っていたスタンプラリーのような「楽しい遊びの活動」だけでなく、今年度は「清掃活動」も行い、縦割りグループでの活動内容を広げることができた。来年度は、同じ活動内容であっても、高学年が更にリーダーシップを発揮して、低学年と一緒に活動できるように言葉をかけ、より自分たちで活動できる縦割り活動を目指したい。

他校へのアドバイス『キーワード 活動の見える化』

・事前に「誰が 何を使って 何の仕事をする」ということを明確にする。→ 本時の活動がシンプルになり、「自分の役割がしっかりできた」「協力してなかよくできた」「気持ちがいい」という児童の達成感を味わわせる。

・年間を通して活動を計画し、必ず教員がグループについて支援し、ふり返りでは、なかよく協力してできた姿を言葉や行動を通して具体的に示し、自信をもたせる。

指定校番号	28022	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立河内小学校	校長	長本 英高	生徒指導主事	高橋 学
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『異学年交流』

取組のねらい『キーワード：異年齢間ピア・サポート』

異年齢間での「お世話をする・される，支える・支えられる」交流体験を通して，個々の児童の安心感や自己有用感，共感性や向社会的スキルの育成。

取組の具体的内容『キーワード：経験や体験を積み重ねて』

1. 年度当初，3つの縦割り班活動の取組を年間行事計画に組み込む。
 - (1) フレンドタイム・・・縦割り班で遊ぶ。年間12回。
 - (2) 縦割りロング掃除・・・縦割り班で清掃をする。年間8回。
 - (3) ウォークラリー大会・・・縦割り班で校内に設けたクイズとゲームコーナーをまわる。年間1回。



2. 取組日課

上記の(1)～(2)については，普段の昼休憩と掃除時間を合わせ，約30分間を設定する。(3)は，平成28年11月18日実施 1.5単位設定。



3. グルーピングをする。(年度当初)

全校児童158人。1年から6年生までの異年齢の14グループのメンバーを組み担当教諭を決める。(1グループ約11名)

4. 各活動内容詳細
 - (1) フレンドタイム

リーダーの6年生を中心に，運動場で「けいどろ」「高鬼」などの鬼ごっこをするグループや「長縄」するグループ遊びをしている。活動後，今回の活動の様子を元に，次回の遊びテーマを6年生と担当教諭とで企画している。



- (2) 縦割りロング掃除

2グループを1組(22名)として，毎回掃除内容の役割分担を変えながら，上級生のアドバイスのもと，協力しながら掃除をしている。活動の最後に全員で振り返りをしている。



- (3) ウォークラリー大会
 - ① 代表委員会でウォークラリーの提案【11月2日(水)】
 - ② 1～6年生の6コーナーと地域の方の計7コーナー内容を決定。【11月11日(金)】
 - ③ コーナーづくり【11月16～18日】
 - ④ 当日



体育館に集合し開会式をする。「縦割り班で行動」・「あいさつをする」「終了時間を守る」を合い言葉に，ゲームでは達成速度を競ったり，クイズの回答を用紙に記入したりしながら交流を深めた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：振り返りと認め合い』

定期的に、異学年交流の場を設定することで、次回への見通しを持つことができる。取組の後、互いの「よい」ところを発見・発表し共有することで下級生を思いやる気持ちや上級生への憧れが、より強く深い繋がりを形成すると考える。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感』

- ・ 回を重ねるごとに、縦割りグループ内での下級生への関わり方や声のかけ方がうまくできる上級生が増えた。
- ・ 交流や活動をする中で、頼られる体験やお世話をする体験、感謝される体験などを通して、自己有用感を高めたり、上級生としての自覚を深めたりする児童がいる。
- ・ 年上の子は年下の子を思いやり、年下の子は年上の子にあこがれるという、当たり前な光景が見られ、みんなが大切にされ、活力あふれる時間となっている。

今後の展開『キーワード：効果的』

他の行事との間隔や関連性をしっかり吟味して、一年間を見通した行事を組むことで、更に効果的な取組としたい

他校へのアドバイス『キーワード：繋がり』

1 学年 1 学級の本校では、同じ学年での深い繋がりに限界がある。縦の繋がりを深めることにより学年に応じた責任感を培うことができると考える。

指定校番号	28023	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八幡東小学校	校長	河野 博一	生徒指導主事	岩谷 恵美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『縦割り活動』

取組のねらい『キーワード異学年交流』

- ・ 高学年の児童がリーダーシップを発揮して、低学年の児童にやさしくいろいろなことを教える。
- ・ 低学年に児童は高学年の児童を見習い、正しい行いを学ぶ。

取組の具体的内容『キーワード高学年のリーダーシップ』

- ・ 昼休憩を延長して縦割り遊びを年間 5 回ぐらい行う。



- ・ 防犯教室を縦割り班で行い、話し合いは、6年生が進める。

- ・ オリエンテーリング集会も縦割り班で行い、高学年の児童が低学年の児童をリードする。



取組の課題・創意工夫『キーワード高学年の練習』

- ・ 縦割り遊びの中で高学年の児童が低学年の児童に折鶴の折り方を教えるように仕組んだため、低学年にわかりやすく教えることができるよう事前に折鶴を折る練習をした。折鶴を折ることが苦手な高学年の児童も仲間に折り方を教えてもらいながら、一生懸命に取り組んでいた。



取組の成果（効果）『キーワード異学年交流による児童の成長』

- ・ 本校は面倒見のよい児童が多く、高学年の児童は低学年の児童の前ではよくがんばり、低学年の児童に優しく接することができる。こうした異学年交流を通じて、低学年の児童は、高学年の児童のように友達に優しく接するようになった。高学年の児童は、低学年のお手本になろうとがんばり、学校での問題行動が減った。
- ・ 防犯教室の話し合いは、毎年行っているので、上手に低学年の児童に意見を言わせることのできる高学年の児童が増えてきている。
- ・ 低学年は高学年の意見を聞き、正しい行いを学ぶ。

今後の展開『キーワード感謝の会』

卒業式の前に、お別れ集会を行う。お別れ集会では縦割り班でお世話になった6年生に、全員がメッセージカードを書いて、お礼の花束として渡す。そうした取組を通じて、お互いの存在に感謝の気持ちが持てるよう取り組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード異学年での話し合い』

- ・防犯教室では、縦割り班で話し合いをする。6年生だけ事前学習を行い、話し合う内容を事前に理解させたことで、6年生が活躍できる場を増やすことができ、高学年としての自覚が育つ。
- ・異学年での話し合いを行うことで、いろいろな考え方を学ぶことができる。特に、低学年の児童にとっては、高学年の児童の意見を聞くことで、高学年の児童に憧れを抱くことにつながる。

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	五日市中央小学校	校長	砂田勝造	生徒指導主事	高橋直美
-----	----------	----	------	--------	------

取組事例名 『中央小縦割り校内ウォーラリー』

取組のねらい『キーワード 異学年交流』

- ・進んであいさつができるようにする。
- ・縦割りグループ（1年生から6年生）のつながりを生かしながら、望ましい人間関係を築き、思いやりの心や規範意識を育てる。
- ・集団の一員として、より良い学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 主体的活動』

事前学習 ・4月縦割りグループを決め、年間13回の縦割り活動をする。遊び、鶴折会、草抜き、防犯教室
 ①ゲーム募集ウォークラリーアンケート（学級会→代表委員会）。

- ②ゲーム検討・決定（企画委員会）
- ③ゲーム紹介のVTRづくり・準備（企画委員会）
- ④VTR放送でゲーム把握（全校）
- ⑤学年クイズ作り（先生）
- ⑥高学年打ち合わせ会



作戦会議①（5・6年）

- ⑦縦割り班打ち合わせ会

作戦会議②

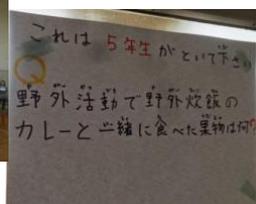
- ⑧準備（企画委員会）



ウォークラリーアンケート	
ねん くみ	
ウォークラリーでしてみたいゲームをぼしゆうします。	
きょねんやって楽しかったゲームでも新しく考えたゲームでもいいです。	
しょうけん	○きょうりょくしてできる。
	○じゅんぴに手がかららない。
	○きょうしつでできる。(体育館でも4分の1くらいで)
①ゲームのゆきえ	
②ゲームのやりかた	
何人がやるのか、何回・何秒するのか、どうやるのかなどじゅんじょよく、絵や文でせつめいしましょう。	

ウォークラリー当日

- ①体育館に全校が縦割りグループで集合し、校長先生の話や企画委員の説明を聞く。
- ②校内の12のゲームポイントと6つのクイズポイントを、縦割りグループで回る。
 - ・移動のルールを守り、ポイントを回る。
 - ・ポイントでは先生にあいさつ（大きな声・語先後礼）をして、決められたルールを守り、協力してゲームやクイズに挑戦する。
- ⑤すべてのポイントを回ったグループは、運動場でグループごとに計画していた遊びをして待つ。
- ⑥時間になったらゲームを終了し、教室に戻る。



()班 たんけんシート				()班 クイズシート			
番号	すること	だれがするか	得点	1	2	3	
1	サッカーボーリング(3人)						
2	ストラックアウト(5人)						
3	校歌チャレンジ(全員)						
4	ドキドキカード(5人)						
5	ゴミ箱入れ(5人)						
6	宝さがし(5人)			4	5	6	
7	豆・ビーズつかみりれ(6人)						
8	本立て(全員)						
9	山手線ゲーム(全員)						
10	ゾンビ村(全員)						
11	絵あて(3人)						
12	風船バレーボール(全員)						
				合計点①		合計点②	
				合計点①		合計点②	
				+		=	
				合計点		合計点	

取組の課題・創意工夫『キーワード 見通し』

○主体的な活動となるよう、今回ゲームは各クラスから募集したが、実際にゲームをする際には、担当教員が説明し、児童がゲームを行うので、当日の児童の主体的運営については課題が残る。

○学級会、代表委員会、企画委員会、5、6年打ち合わせ会、縦割り打ち合わせ会と、どこで何をするか手順を見直し、細かく計画を立てて、児童が主体的に活動できるよう有効的に時間を使っていく。

○より達成感が得られるように、ゲーム内容やクイズについて工夫が必要である。

- ・1 ゲーム〇分以内や何グループかが同時にできるよう、内容や場所の工夫をする。
- ・クイズの量を増やす。(学年クイズ以外にも作ってはどうか。)
- ・ゲームでマイナスポイントが付くものより、加点されるゲームの方でやる気を引き出す。
- ・カードに評価する項目を設けて、加点方式にする。

取組の成果（効果）『キーワード 自覚とあこがれ』

児童の感想

高学年・疲れたけど、楽しいウォークラリーだった。・まとめることの難しさが分かった。・達成感を味わうことができた。・全員が楽しむことができてよかった。・まとめる、計画を立てる、手本となる、気を配る、協力する大切さが分かった。

中学年・学校みんなが考えたゲームができて楽しかった。・6年生がみんなに声をかけて優しくかったからこそ、ウォークラリーが楽しかった。・6年生はいろいろなことを教えていた。お手本になった。・全員でやってできたのが楽しかった。・みんなで協力するのばかりだったから少しは仲良くなれたかなと思った。

低学年・自分たちのクラスのゲームが選ばれてうれしかった。・ゲームが楽しかった。・5、6年生のお兄さんお姉さんが優しく教えてくれてうれしかった。・6年生はどのゲームも上手でびっくりした。・自分が3年生になったら、1、2年生の面倒を見てあげたい。

この縦割り活動と校外ウォークラリーを通して、高学年は、リーダーとしての自覚をもち、まとめることの大変さを知るとともに、低学年が活躍できるように気遣い、引っ張っていかなくてはならないという思いをもつことができた。低学年は、高学年を憧れの存在として認識していた。高学年の存在が低・中学年にとっての良きモデリングとして存在し、低、中学年も「あんな6年生になりたい」という気持ちを、活動を重ねるごとに育てていくことができた。また、思いやりの心、規範意識、問題解決の意識を育てることができた。学校評価アンケート（児童の意識）では、きまりを守っているは昨年12月92%→今年12月95%、友達の嫌がること（言葉の暴力やいじめ）をしないように気をつけるは91%→94%と少し昨年度を上回っている。

今後の展開『キーワード 生かす』

深めた縦割りのつながりを1月の縦割り遊び、2月のリーダー引継ぎ縦割り遊び、3月のお別れ集会へと生かして、お互いに積極的に声をかけてくことができるようにする。3月の最後の集会では、6年生にお祝いとお礼の気持ちを伝え、6年生から在校生に一人ずつに、言葉をかける時間を設定していく。学校生活の様々な場面で、つながりを生かしていく。

他校へのアドバイス『キーワード つなげる・広げる』

異学年の活動は、お互いに学び合うことが多いので、縦割りを生かした活動を、年間を通して行っている。縦割りウォークラリーは、校外から校内に変わって2年目で、昨年の反省を生かして、今回は児童がより主体的に活動できるよう、各クラスで話し合っ、ゲームのアイデアを募集するという活動を取り入れた。児童ならではの楽しいアイデアが出て、昨年度より主体的な活動となった。来年度は当日のゲーム運営を児童が協力してできるよい方法はないか、縦割り活動を生かした児童主体のウォークラリーにするための方法を模索して次年度へとつなげたいと思っている。

指定校番号	28025	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市小学校	校長	高田 伸	生徒指導主事	木梨 智紀
-----	------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『たてわり活動と五小っ子タイム』

取組のねらい 『 うれしい！ 楽しい！ 大好き！ 』
（喜んでくれて） （遊ぶことが） （友達，上級生が）

○児童が主体となって遊びを計画・実施することで、仲間とのかかわりを促したり、成功体験を増やして達成感を味わわせたりする。
 ○上級生には、リーダーシップや思いやりの心を持たせ、下学年には、上級生に対する憧れの気持ちを持たせる。また、五日市小学校という集団の一員であるという気持ちを持たせる。

取組の具体的内容 『 五小っ子タイムをみんなで楽しむ 』

○毎週木曜日の 8:15 から 8:35 までの 20 分間を、『五小っ子タイム』とし、学級遊びや、たてわりグループでの活動、ペア学年との異学年交流の時間にする。
 ○『五小っ子タイム』を利用して、たてわりグループでの集団遊びを年 5 回行う。遊びの内容は、事前に五小っ子タイムで 6 年生が中心となって、グループ内で話し合っ決めて。遊びの準備や進行も、6 年生が行う。
 ○校内ウォークラリーを 12 月に行う。5、6 年生がリーダーとなり、下学年を楽しませたり、ルールやマナーを守らせたりする。



取組の課題・創意工夫 『 学年への負担の軽減 と 児童へのフィードバック 』

○準備時間等で、特定の学年に過剰な負担にならないように配慮する必要がある。ウォークラリーは、ゲームを簡素なものとし、当日の各ゲームコーナーの運営は教師主導で行うなど、児童の負担を軽減する。
 ○たてわり遊びの指導は、6 年生の担任だけでなく、学校内の全教員で行っている。6 年生の児童は、遊びの計画を立てた後、担当の教員の所へ報告に行き、遊び道具や場所の調整や、アドバイスをもらう。たてわり遊びの終了後には、振り返りの時間をとり、担当の教員から、肯定的で共感的な評価をしてもらう。
 ○2 回目のたてわり遊びの後に、1～5 年の児童は、同じグループの 6 年生に向けて、お礼の手紙を書く。また、最後のたてわり遊びの後には、教員たちから 6 年生に向けて、お礼と励ましの言葉を文章でもらい、6 年生の学級に掲示する。自分たちが感謝され、役立っている実感を得られるような活動を設定することで、自己有用感、自己存在感を高める。



取組の成果（効果）『 学級経営や登校刺激にもつながる 』

○たてわりグループでの遊びを繰り返すことで、回を追うごとに遊び方が上手になっていった。上学年の児童は、説明やゲームの進行の仕方、ルールを守らせるための思いやりのある言い方などを学び、下学年は、ルールを守ることで楽しく遊ぶことができることや、友達と遊ぶことの楽しさを再確認することができた。

○学校として五小っ子タイムを利用した学級内の集団遊びを推奨することで、教員たちも児童と一緒に外遊びを行う姿が見られるようになった。その結果、クラスの中に暖かい雰囲気生まれ、普段は外遊びや、集団での遊びに参加しにくい児童も、仲間と一緒に遊ぶきっかけになったりした。また、学級内の児童の人間関係の把握にも役立った。

○「木曜日は五小っ子タイムがあるから楽しい」「木曜日は休みたくない」など、児童からの好意的な意見が多く聞かれている。

○チーム対応している遅刻しがちな児童の中には、木曜日の遅刻数が非常に少ない児童もいる。

○月曜日から金曜日までの欠席人数を調べると、木曜日の欠席人数が最も少ない（235人）最も多いのは月曜日で336人。



今後の展開『 遊び以外にも 』

○年度最後のたてわり遊びは、5年生が主体となってい、6年生がアドバイスやサポートをするなど、来年度につながるような取組を行っていきたい。

○たてわり活動を遊びだけに限定せず、作品作りや、お互いの成長を認め合うような場の設定、清掃活動など、様々な場面で行うことや1～6年までの大きな集団だけでなく、ペア学年での異学年交流を行うことで、より効果的にねらいに迫れると考えており、来年度に向け計画して行きたい。



他校へのアドバイス『 遊び は 学び 』

子どもたちにとって、遊びも勉強。遊びから学ぶことはたくさんあると思います。校長先生のリーダーシップのもと、忙しい学校生活の中で少しずつ時間を確保し、子どもも教員も楽しい活動を、一緒に仕組んでいきましょう。

指定校番号	28026	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上温品小学校	校長	山名 朋子	生徒指導主事	木村 文美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『縦割り活動』

取組のねらい『キーワード 異年齢集団で遊ぶことにより人との関わりについて学ぶ』

・1年生～6年生までの異年齢集団（たてわり）を作り，活動することで，人との関わり方を学ばせ，コミュニケーション能力を育てたり，思いやりの心を育てたりする。

取組の具体的内容『キーワード 思いやり・協力』

- 上温っ子タイム
 - ・第3金曜日の昼休憩から掃除時間にかけて，6年生を中心に遊びを考えてたてわり班で遊ぶ。
- たてわり読書
 - ・読書タイムの時間に6年生が1年生に，5年生が2年生に，4年生が3年生に絵本の読み聞かせをする。
- たてわり石拾い
 - ・年に4回，掃除時間にたてわり班でグラウンドの石拾いをする。

取組の課題・創意工夫『キーワード 児童同士の主体的な関わりを増やす』

- たてわり班1つにつき，教諭も1名配属することで，より細かい見取りができた。
- 上温っ子タイムについて
 - ・グラウンドを4分割することで，狭い範囲になり，6年生を中心に，どの学年でも遊べる遊びを考え遊ぶことができた。（写真①）
 - ・反省は「仲良くできたか。」「困ったことはあったか。」の2点で話し合っており，11月は「よくできている」グループがほとんどであるが，時々トラブルなどもあるため，教師が仲裁することもあった。
 - ・6年生が1グループに1，2名なので，最初の頃は教師の力を借りないと下級生の意見をまとめられないグループもあったが，今ではグループだけで話し合いができるようになった。（写真②）



(写真①)



(写真②)

○たてわり読書（写真③）

- ・高学年は、たてわり班の下級生を思いながら絵本を選び、読む練習を重ねて本番にいかすことできた。
- ・下学年の児童も、静かに楽しそうに聞くことができた。1年に数回するのが理想であるが、今年は年度途中の提案になったため、1回しかできなかった。

○たてわり石拾い（写真④）

- ・本来ならば、全校たてわり清掃が目標であるが、まずは、クラスごとにしてきた石拾いをたてわり班で実施した。私語をしてはいけないので、石がある所をジェスチャーで伝えることができた。また、ゲーム感覚で石拾いをするので、クラスごとの石拾いよりもたくさん小石を集めることができた。
- ・各教諭が担当の班の児童の様子を「協力していたか」、「だまって活動できたか」、「たくさん石を拾えたか」という項目でチェックをし、結果を集計し、高得点だったベスト3を放送で発表した。



(写真③)



(写真④)

取組の成果（効果）『キーワード 心にブレーキをかける』

- ・1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。

○ 正しい言葉づかいについて

- ・「正しいことばづかいで話す。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は64%→11月は70%で6%向上した。

○ 人のいやがることをしないについて

- ・「人のいやがることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月は67%→11月は76%で9%向上した。

今後の展開『底上げ』

- ・心のブレーキふり返りカードでは、「できた」から「きちんとできた」と言える児童が増加しているが、一方では、「あまりできなかった」「できなかった」という児童も10%見られるので、改善できるような取組を進めていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 意識付け』

- ・児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、「長幼の序」⇒「①高学年は低学年を敬い、低学年のモデルになる様に。」「②低学年は高学年を敬う様に。」を図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。

指定校番号	28027	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品小学校	校長	上田 盛之	生徒指導主事	兼重 聖美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『温品なかよしオリエンテーリング』

取組のねらい 『キーワード 縦割り活動』

- ・ 縦割り班で活動をすることで、学年や学級の異なる友達や地域の方々、教職員と豊かなかかわりを持ち、望ましい人間関係を育むとともに、感謝の気持ちを持たせる。
- ・ 集団の一員として、自分の役割を果たし、協力して解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容 『キーワード 豊かなかかわり合い』

(事前)

- ・ 簡単なゲームをしたり、平和集会で折り鶴を一緒に折ったりするなど縦割り班活動を定期的に行う。
- ・ 「温品なかよしオリエンテーリング」前に、児童朝会を使って、縦割り班で集まり、回っていく順番とか、班の決め事など、6年生が中心となって作戦会議をする。



<作戦会議>

※その際、6年生のリーダーにメンバー一人一人の思いや願いを聞き取るよう助言する。

(当日)

- ・ 地域の方々がお世話してくださる「ふれあいゲーム」コーナーと、教職員が担当するゲームのコーナーを数箇所ずつ設け、縦割り班で相談しながら、6年生のリーダーシップのもと、児童だけで回っていく。
- ・ 学年や先生たちからのクイズを解きながら回っていく。

※ゲームコーナーを決める際には、グループで自然に協力し合えるようなゲームに取り組ませる。



<グラウンドゴルフ>



<竹馬>

(事後)

- ・ 「温品なかよしオリエンテーリング」でお世話になった地域の方々に、6年生が感謝の手紙を書く。

- ・ 運営委員会の児童が、縦割り班ごとの得点を計算し、児童朝会で上位3チームの表彰を行う。
- ※チームで協力して取り組むゲームの配点を高くする。また、表彰式では、協力し合って取り組んでいたことを評価する。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 創意工夫』

- ・ 今年度は、運営委員会の児童がステージ上を飾る看板を進んで作成し、会を盛り上げた。
- ・ 創意工夫があまりできなかつたという昨年度の反省を受けて、運営委員会で話し合い、今年度は看板を作ることを決め、休憩時間に児童会室に自主的に集まって、少しずつ作製し、完成させた。



<開会式の様子>

取組の成果（効果） 『キーワード 思いやりのある関わり合い』

- ・ 6年生が中心となり、優しく関わり合いながら、みんなで活動を楽しんでいた。
- ・ 上学年の児童は、下学年のお手本となるように、思いやりの気持ちをもって関わり合うことができた。
- ・ 下学年の児童は上学年の児童に協力し、楽しく活動していた。

☆学校生活アンケート（12月）の結果・・・7月より肯定的な評価が増えた。

「学校は楽しいですか」 94%→95%

「友達がいますか」 97%→99%

「友達に助けてもらったことがありますか」 91%→94%

今後の展開 『キーワード 継続』

- ・ オリエンテーリング後に、縦割り班で昼休憩に遊ぶ機会を設け(今年度は百人一首・縄跳び)、縦割りのつながりを継続していく。
- ・ 3月に卒業を迎える6年生と関わった経験や、楽しかった思い出を振り返らせ、心のこもったお別れができるようにしていく。

他校へのアドバイス 『キーワード 計画的に』

- ・ 年度初めから、6年生がリーダーとしての意識を高めるように常に声かけし、6年生が中心となって活動する取組を計画的に入れていくことで、最高学年としての自覚と責任が育っていくと考えられる。

指定校番号	28031	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	比治山小学校	校長	関 和典	生徒指導主事	佐藤 勝司
-----	--------	----	------	--------	-------

取組事例名 『比治山ビッグゲーム』

取組のねらい 『たて割り班で活動』

異学年集団によるグループ活動を通して、異学年交流の楽しさを経験し、協力して問題を解いたり目的の地まで決められた時間内でゴールしたりする喜びを体験する。

取組の具体的内容 『低学年～高学年がチームの一員として参加する』

- ① たて割り班で協力しながら、ポイント（15箇所）にある問題に答えたり、ゲームをしたりしながら歩く。問題への取組は得点として加算されていく。
- ② 決められた時間内にゴールする。
 - まんがグループ(1～24班) まんが図書館前スタート→さくら広場ゴール
 - さくらグループ(25～48班) さくら広場スタート→まんが図書館前ゴール



- 9月 9日(金) たて割り班名簿の完成（9月5日（月）～）
- 10月 21日(金) 代表委員会へ提案
- 10月 31日(月) 問題用紙締め切り(放課後までに児童会室へ提出)
- 11月 1日(火) 問題掲示用画用紙配付
- 11月 1日(火) 比治山公園へ下見に行く。(担当教職員)
コース・危険箇所・トイレの確認
- 11月 4日(金) 6年生リーダー研修会（6年生担任）
コースの説明や下級生に注意することなどを確認する。
- 11月 4日(金) 問題掲示用画用紙提出
- 11月 8日(火) 児童朝会(運動場)…たて割り班ごとに作戦会議 ※雨天時は体育館で行う。
リーダーを中心に自己紹介や当日の注意点を話し合う。

○後日成績優秀チームの表彰を行う（計画委員会の手作り賞状）

取組の課題・創意工夫『やさしさいっぱいの問題や活動を考える』

(創意工夫)

- 3択問題で、全員で参加できるもの。
 - ・これまで各教科や総合の時間に学んできたことをもとに問題を作る。
 - ・特定の学級にしか分からない問題は避ける。
 - ・どの子も読めるように、問題文にはふり仮名を付ける。
 - ・6年生は1～4年生専用の問題を作成する。(6年生で分担を決める。)
- ゲームコーナーも全員で参加できるもので、なおかつ低学年も活躍できるものを考える。

取組の成果(効果) 児童の声『来年もやりたいの声いっぱい』

○保護者や地域の方々にも協力をして頂く全校で取り組むイベントは、子どもたちにはとても楽しみにしている。代表委員会における各クラスからの反省にも、
「どの学年も協力してできた」
「6年生が優しくしてくれた」
「低学年だから解ける問題があってよかった」
等のプラスの意見が多く出た。(代表委員会では100%の学級)
また、5年生の中には、「来年は、自分がリーダーとなって、低学年をリードしていきたい」という意見もあり、意欲を感じられる。

今後の展開『存続か改善か』

1～4校時を使っての、名前の通り「比治山ビッグゲーム」である。授業時間数確保のため、内容や時間を縮小してはどうかという意見がある。また、多くの行事が秋頃にあり(運動会、音楽発表会、修学旅行等)、特に6年生の負担は非常に大きいという意見もある。

しかし、異学年交流の大切さや楽しさ、地域にある「比治山」の自然(秋)を感じる学びは、この活動以外には考えにくいという意見も多い。

子どもたちが自主的に取り組み、達成感を味わえる全校的な取組について、校務分掌を中心に代案を考えるが、なかなかいい案が出ない。

結局、計画～準備～実施まで時間を相当費やすという欠点はあるが、「比治山ビッグゲーム」は来年度も他行事との兼ね合いを考えながら継続したい。

他校へのアドバイスではないけれど『いつまでも心に残る行事』

多くの小学校では、たて割り班で、校舎内をウォークラリー形式で問題を解いたり、店のようなものを出してゲームをしたりする等の活動をするに取り組んでいる。上記のような活動は、本校のように1学年4クラス以上になると、校舎内あるいは運動場だけの活動が困難である。

しかし、比治山公園まで800人弱の児童・教職員が歩き活動を行う場合、保護者や地域の方に往復の交通指導や比治山公園内の見守りに協力してもらうなど、安全面での心配が伴う。大きな協力の下で実施していることは教職員も子どもたちも心に留めている。

「行事の精選」という言葉の元、この行事を縮小・削除することはたやすい。しかし、大きくなって母校の思い出の1つとしてしっかりと覚えてい続ける行事はそう多くはない。実際、教育実習に来る大学生が一番心に残る行事だったと話している。

地域の特性を生かした行事は必要ではないかと思う。

指定校番号	28032	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立宇品小学校	校長氏名	森川 康男	生徒指導主事氏名	原 幸子
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『宇品っ子集会』

取組のねらい

- ・ 上学年と下学年がペアでグループになり，交流を深め，よりよい人間関係を形成する。
- ・ 集団の一員として自分の役割を果たし，協力してよりよい学校づくりに取り組む自主的・実践的な態度を育成する。

取組の具体的内容 『自主・実践』

- 日時 平成 28 年 11 月 16 日 (水) 宇品タイムと第 5・6 校時
- 場所 各教室及び体育館
- 内容
 - (1) 学年で統一したテーマのものを準備する。
 - (2) 2 学年が同じ内容にならないように，学年間で相談しておく。
 - (3) 教育活動に合った創造的なものを考える。
 - (4) 事前準備で，学習内容に合うものは，国語，生活，総合，図画工作科などの，シラバスにある時数でカウントをする。

学年	テーマ	具体例(内容)【当日までの時数例】
1・2 年生	「おもちゃであそぼう」	やまのぼりかめさん，ぶんぶんゴマ，ほか手持ちおもちゃを作って紹介する。【時数：生活科，図画工作科，国語科，学級活動など】
3・4 年生	「チャレンジランキングゲーム」	空き缶積み，傘バランス，漢字パズル，ほか，タイムを計って競うゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動，国語科など】
5・6 年生	「スポーツゲーム」	ストラックアウト，ボーリングなど，体を使って取り組めるゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動，図画工作科など】
わかば学級	学級児童の実態に応じて	担任で相談する

- (5) 混雑しないように，1 グループ(6・7 人)が一斉に楽しめて，5 分以内で次の学級へ行けるように内容を考慮する。
 - (6) 教室ごとの準備・片付け・運営は，学級児童ですばやくできるように役割分担を細かく考えておく。
 - (7) 開始の放送までに学級でお店の準備しておく。
 - (8) ごみを出さないことを前提とし，リサイクルできるものを利用するなど，材料を集める。学校で処分できるものは各教室ダンボール 2 個までとし，持ってきた材料や作成したものは，各自持ち帰る。
 - (9) 学級でスタンプを用意しておき，スタンプ係も決めておく。
- 4 役割分担**
- (1) 全体の司会進行は，児童運営委員会が行う。
 - (2) 各学級のお店は，どの学年の人も楽しめる内容で，学年で話し合った上，学年の実態に応じたものを決定する。担任がお店の内容を児童運営委員会へ知らせる。(10 月 14 日(金)まで)
 - (3) 学級担任は学級内と担当場所(付近の廊下階段)の安全指導を行う。
- 5 進め方**
- (1) 開会式を自分の教室で行う。
 - (2) 開会式終了後，スタート放送で移動を開始する。
 - (3) 各教室でスタンプをもらって，地図を見ながら次の教室に進む。
 - (4) 放送を聞いて，前半・後半でお店の当番の人と回る人を替える。
 - (5) 放送は児童運営委員会児童が行う。
- 6 ルール**
- (1) グループで行動する。
 - (2) 他のグループと合体したり混じったりしない。
 - (3) 校舎内では右側を歩き，走らない。体育館周りは一方通行にする。
 - (4) 移動は，順路を守り逆走しない。
 - (5) 放送をよく聞いて行動する。
 - (6) 前半 45 分後半 45 分とし，前半後半の間 5 分で交代をする。(放送の合図で開始，終了)
 - (7) 終了 10 分前に学級の受付を終了する。
 - (8) 準備・片付けは児童全員で協力して行う。

(9) 出入り口は全学年で揃えて、混乱を少なくする。

7 「字品っ子集会」当日の教員の役割

(1) 教室移動のタイミング、前後半の移動の呼びかけをする。

(2) 各学級担任は、定刻に終了できるように、10分前には受付を終了することを指導する。

(3) 教室内や付近廊下の児童管理・安全指導をする。

(4) 放送・進行は、児童運営委員会担当職員が指導する。

(5) 担任外教員は、体育館周りや北校舎西出入り口周りを巡視する。

(6) 各学級担任は、5分以内で次の学級へ行けるように指導する。(渋滞すると全て回れないグループ出る。)



取組の課題・創意工夫 『ピア・サポート的交流活動』

【仲よく交流できるように】

事前指導

(1) グループ作り

○遠足のペアを活用してグループを作る。(遠足・平和の折鶴作りなどペア行動はしている。)

①ペア学年で仲よく回ることができるようにメンバーを確認しておく。

※わかば学級は個別の支援に応じて交流学級に入る。

②各学級の児童を、前半に回るグループと後半に回るグループの2つに分けておく。(上学年)

③2つか3つのペアと一緒に回るメンバー(6・7人)を決め、メンバー表を作成する。

④4・5・6年生の一緒に回るグループ毎に、事前打ち合わせ会までに班長と副班長を決めておく。

(2) 事前打ち合わせ

○ペア学年毎に担任間で相談して10 / 17(月)～11 / 4(金)の間で、期日を決めて行う。

①グループの自己紹介をする。

②スタンプカードにメンバー全員の名前を書く。

③行くコースを確認する。(混雑を考慮し、同じ学級数字の教室を回るようにする。児童運営委員が順路を指定する。「例 6-1→1-1→3-1→4-1→2-1→5-1 の順番で行く」など)

事後指導

○集会後もグループ同士で仲よく交流できるように指導する。

取組の成果(効果) 『よりよいつながり』

・他の児童とコミュニケーションを図ることが苦手な児童が、興味・関心のある活動を実践することによって、学級の中での存在感や連帯感を持つことができた。

・上級生が下級生を思いやる気持ちを持つことができた。約1300名の児童が整然と行動している。

上学年と下学年が交流を深め、仲良く回ることができたか。98%以上

【アンケートより】

自分の役割を果たし、協力して取り組むことができたか。98%以上

今後の展開 『人間関係づくり』

・「子どもの人間関係づくり推進プログラム」について教職員が連携し、計画的な取組の推進を図る。

・協同学習の取り入れ方や方法を学年で研修し、実践内容を深める。

・行事取組の場面においてグループコミュニケーション活動を実施する。

他校へのアドバイス 『全校的指針』

・ピア・サポートを活性化するために、協力の価値を一人一人が認めて実践するといった全校的指針を持ち、相互性・信頼性に基づく人間関係を築くことが大切である。

指定校番号	28046	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立友和小学校	校長	熊谷 裕之	生徒指導主事	田邊 由貴子
-----	------------	----	-------	--------	--------

取組事例名 『縦割り班そうじ』

取組のねらい『キーワード 縦のつながり』

縦のつながりを作っていくために、本校は6年生から1年生までの縦割り班でそうじを行っている。異年齢で力を合わせることに力を入れている。6年生のリーダー性を育てることもねらいとしている。

取組の具体的内容『キーワード ◎・㊦・㊧でより良いそうじに』

縦割り班そうじをより充実させるために、そうじをする時のキーワードを美化・掲示委員会が考えた。そのキーワードは「◎：小声で注意，㊦：OKサインでほめよう，㊧：リーダーの言うことが一番」である。美化・掲示委員会が委員会朝会で呼びかけてくれ、ポスターなども作成し、子どもたちが自主的に取り組めるようにしていった。先生やリーダーも小声で助言したり，OKサインでほめるようにしており，しだいに定着してきている。

取組の課題・創意工夫『キーワード 花丸カードで承認』

6年生のリーダー性を育てていくために、学級担任をはじめ全職員がいろいろな場面で児童の指導にあたっている。一つ一つ誉めて育てることを大切にしている。

そうじを，特に一生懸命にがんばった児童に対して，そうじの終わりに担当場所の先生が花丸カードをわたして誉めるようにしている。花丸カードには，具体的にどんなことをがんばったのか書いてわたすようにしている。この花丸カードは教室に帰って担任の先生に見せて誉めてもらう材料にしている。その後は連絡帳にはり，保護者にもわかるようにしている。花丸カードを集めてうれしそうにしている児童もたくさんいる。

縦割り班そうじでは，学級の児童がどのようにそうじをしているか見えにくいので，花丸カードにより，少しでもそうじの時の様子がわかるようにしている。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感が育つ』

縦割り班そうじでは，リーダーである6年生の役割が大きい。6年生が班をまとめていくことが，大変なことは事実であるが，他者から認められているという自己有用感を育てることに役立っている。6年生の1学期末の自己有用感を感じている児童の割合は77%，2学期末の割合は78%である。5年生末の数値が64%だったので，自己有用感を感じている児童の割合が増えている。

また，秋の学習発表会後に他学年の児童に学習発表会の出し物を見た感想などのメッセージを送った際に，縦割り班が同じ児童に対してメッセージを送っている児童がたくさんいた。縦のつながりができていることを再認識した。

今後の展開『キーワード そうじ始まりのあいさつ』

今は，昼休憩の後，ばらばらにそうじ場所に来て，そうじがいつのまにか始まっている状態である。来年度にむけて，2月28日から，そうじの始まりのあいさつを取り入れ，全員そろってそうじが始められているか確認しやすくしていく予定である。現在行っているそうじの終わりの反省会もより充実させていけるように考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 縦のつながりから学校のまとまりに』

先生が，児童の良いところをふせんに書き，職員室前に掲示している承認ボード（つながる友和っ子）にも，縦割り班そうじで縦のつながりができていることがたくさん書かれている。縦のつながりができると，運動会や学習発表会にも良い効果を生み出し，学校全体がまとまることにつながっている。

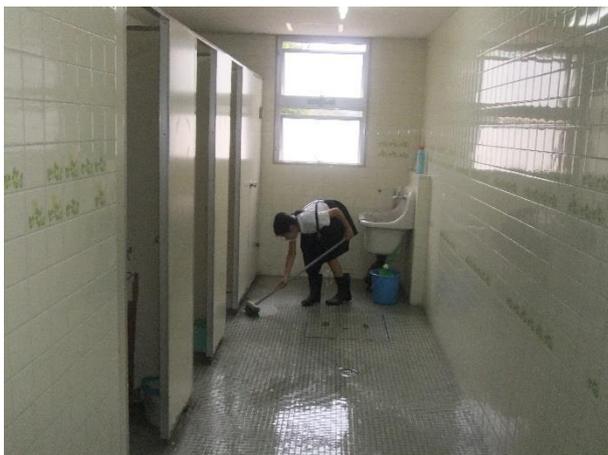
縦割り班でのそうじの様子



ほうきではいています。



直角ぶきでふいています。



トイレそうじをしています。



そうじの終わりの反省会です。



花丸カードです。



先生が花丸カードをわたしています。

指定校番号	28047	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	松江都志美	生徒指導主事	永山英治
-----	-------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『たて班掃除』

取組のねらい『高学年の自己有用感を高める』

全学年の児童で構成した異年齢集団による掃除を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、集団への所属感を深めながら好ましい人間関係を育て自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。

とくに、6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して指導し評価することで、6年生の自己有用感を高める。

取組の具体的内容『日常的な異年齢集団活動の設定』

既存の掃除場所と掃除内容と指導担当者の割り当てについて見直しを行った。その後、組会（同じ組の担任6名ずつで構成）を通して、特に配慮の必要な児童を担当する教職員をそれらの児童との相性などに考慮し優先して決定するなどして全児童を80班にわけた。

運営委員会（児童会）により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。

掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価を行わせた。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班員の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。

美化委員会が、各班の2ヶ月間（掃除場所は2ヶ月間固定する。）の掃除の取組状況の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰した。

取組の課題・創意工夫『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』

各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的な計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように褒める。

6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。

取組の成果（効果）『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』

学校評価アンケート（平成28年12月実施）の結果

質問「みんなのためになることをすすんで行う」についての6学年児童の肯定的な評価が89%

同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班の構成の最適化に努めた。また、今後の縦割り班によるレクリエーション等の多様な活動を展開する素地ができた。

各教職員が担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が高まった。

特に配慮の必要な児童を担当する教職員を児童と教職員との信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。

運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように適切な支援をすることができたと考える。その結果、たて班掃除について、全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考えられる。

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組について自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会を設定することができた。さらに、美化委員会が、各班の2ヶ月間の掃除の取組状況に関する評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、児童朝会で表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めたり、児童らの掃除に対する意欲を高めたり、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったりしたと考える。

【運営委員会によるオリエンテーション】



【掃除】



【評価】



【表彰】



今後の展開『異年齢集団活動の多様化』

たて班（異年齢集団）活動を掃除だけでなく、レクリエーション活動等、多様に展開することで、さらに異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあう場面を多く設定したい。そして、より好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養いたい。

6年生が5年生以下の児童をレクリエーション活動等の多様な「たて班」活動を通して評価し、指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

他校へのアドバイス『新たな活動を立ち上げる際はデメリットも丁寧に語る』

たて班掃除（異年齢集団による掃除活動）を平成27年度に導入した。

たて班掃除を計画し実施するまでに1学期間を費やした。学級掃除からたて班掃除へと既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を払拭しながら立案するのに時間を要したためである。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり提示することと、丁寧な説明が大切だと改めて実感した。

指定校番号	28050	学級活動		児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	--	-----------	-----------------------	------	--	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	校長	埴田武浩	生徒指導主事	南角明
-----	-------------	----	------	--------	-----

取組事例名 『たてわり活動』

取組のねらい 『キーワード：高学年リーダーとしての主体性の育成』

たてわり活動を通して、5・6年生のリーダーが班をまとめるためにはどのようにするとよいのか考えたり、実践したりしながら主体性を育成し、あこがれのリーダーとして学校全体に主体的な姿を示すことができる。

取組の具体的内容 『キーワード：活動の場や機会の確保』

- たてわり活動を3つに分類し実施。
- ①学校愛・奉仕の心の育成，掃除の仕方の定着のための「たてわり掃除」
※毎日の掃除時間に実施
 - ②居場所づくり・規範意識向上のための「たてわり遊び」
※月に一度，学校行事として実施。たてわり班ごとに遊びを計画し，遊ぶ。
 - ③地域社会への貢献・中学校との行動連携のための「クリーンキャンペーン」
※年に一度，中学校生徒会が企画・運営する地域のボランティア（清掃）活動にたてわり班で参加。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：うまくいかないリーダーへの指導・助言』

【課題】
一人の教員が3～4班・40人程度の児童を担当するため，効果的なタイミングで適切な指導や助言を行うことに難しさがある。行き詰まり感を感じて自ら相談に来る児童もいるが，適宜・適切な助言を行うことができる環境づくりが必要であるとする。

【創意工夫】
リーダーに対する事前の指導を充実させる。新しい取組を始める前には必ず取組の実施方法や各学年に応じた目的，リーダーに求められること等について5・6年生を対象に話をしたり，計画を立てさせたりする時間を確保し，リーダー自身が見通しをもち，自信をもった状態で取組を実施できる状態を作る。

取組の成果（効果） 『キーワード：リーダーの主体性の育成・下学年のリーダーに対するあこがれ』

- 全ての活動において，活動中の問題発生に対し下学年児童が担当教員ではなく，リーダーに相談する姿が見られるようになった。
- ①たてわり掃除
リーダーが担当教員の指示や確認をしなくても，掃除の分担を計画したり，班のメンバーの実態に合わせて分担を変更したりするようになった。
 - ②たてわり遊び
「活動は楽しかったですか。」という振り返りの質問項目に対し，肯定的にとらえる児童の割合が98%であった。ほとんど全児童がたてわり遊びを肯定的に捉え，楽しむことができている。また，高学年リーダーに対して「下学年に対して分かりやすく，説明や指示をすることができましたか。」という振り返りの質問項目に対して96%と下学年を意識した声かけをしていることが分かる。
 - ③クリーンキャンペーン
中学校生徒会が児童の前で堂々と活動の企画・運営をする姿を見ることができ，中学生へのあこがれをもったり，中学校生活にも見通しをもったりすることができた。

たてわり活動事前指導



たてわり活動の目的等真剣に話を聞いて活動をイメージしています。



そうじマニュアルをもとに掃除の分担を考えています。

クリーンキャンペーン



中学生の挨拶です。中学生の堂々とした姿にあこがれをもつことができました。

たてわり遊び



班で仲良くカードゲームを楽しんでいます。

たてわり掃除



高学年が掃除の仕方の手本となっています。



リーダーを中心に振りまき掃除を返してリを掃り返して。

今後の展開

『キーワード：さらなるリーダー性の育成のための児童会執行部によるたてわり活動の運営』

今年度活動中は全て高学年リーダーが班をまとめていたが、事前の計画や事前のリーダーへの指示・説明等は教員が行っていた。さらなるリーダー性の育成を目的に事前～事後までの企画・運営を児童会執行部に任せ、その姿を執行部以外の高学年リーダーに示すことで、高学年リーダー全体がよりリーダー性をアップすることができるような仕掛けをする必要がある。また、成功事例だけでなく、失敗やうまくいかなかった事例を交流し、解決策を自ら考えるというリーダー会を仕組むことも大きな次のステップにつながるものと考えられる。

他校へのアドバイス『キーワード：事前指導の充実』

今年度初めての取組であったが、初めての活動の前には必ず5・6年生全員を対象に事前指導を行った。その際、「リーダーとはどんな人か」「リーダーに求められるもの」「3つの間（仲間・空間・時間）を大切にすること」「班をまとめる際の留意点」「活動の内容」「各学年のねらい」「実際に計画を立てる」等について話をしたり、考えさせたりすることでリーダー自身がしっかりと見通しと自信をもつことができるようにした。そうすることで、リーダーの指示や説明で活動を進めることができた。

うまく活動できることだけでなく、全ての活動にはそれぞれの学年に個別の目的があり、ただ楽しんだり、仲良くなったりするだけでなく、目的を達成し、全員が成長するための活動であるという価値付けをしっかりと行うことが大切だと感じた。

指定校番号	28051	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	奥 金実	生徒指導主事	林 寛
-----	-----------	----	------	--------	-----

取組事例名 『縦割り活動～なかよし給食・なかよし遊び』

取組のねらい『キーワード・・・集団』

- ・ 異年齢の集団と一緒に食事をしたり遊んだりすることを通して、他学年の児童との交流を深める。
- ・ 自発的、自治的に学校生活に関する諸問題を解決していくことにより、全校・学年・学級集団への所属感や連帯感を深めさせる。
- ・ 指導者は、担当学級や担当教科以外の児童との活動を通し、より多くの児童理解につなげる。

取組の具体的内容『キーワード・・・連帯』

本校ではいろいろな場面で縦割り班を取り入れた活動を行っている。主なものは以下の通りである。

- ・ 縦割りそうじ・・・メンバーへの清掃場所の指示から反省会までの活動をリーダーが率いて行う。
- ・ 1年生歓迎遠足・・・全校児童が班ごとに並んで歩く。現地では児童会執行部が全体レクを実施する。
- ・ 縦割り挨拶運動・・・校門と児童玄関の計4ヶ所に1班ずつ交替で立ち、元気な声を響かせている。
- ・ 6年生を送る会・・・縦割り班でお世話になったリーダーにお礼の気持ちをこめた感謝状を贈る。

これらの活動のうち、今回は「なかよし給食・なかよし遊び」という取組について紹介する。

- ・ なかよし遊び・・・年2回、お弁当給食を持ち、グループごとに昼食をとる。その後、校庭・体育館・教室に別れ、班ごとに企画したなかよし遊びを実施する。詳細は以下の通り。

実施計画

- ① 会食場所や遊びの内容を考える。
 - ・ 13：35から、みんなで「遊びの内容」を相談して決定する。
 - ・ 原案は、6年生のリーダーを中心に5・6年生で考えておく。
- ② 会食場所と遊び場所の検討

安全面を考慮し、屋外で遊ぶ班を前期後期で交替する。

 - ・ 赤グループ、黄グループ→遊びは屋内 → 体育館か各教室で
 - ・ 青グループ、緑グループ→遊びは屋外 → 校庭で（雨天の場合は教室とする）



③ 遊びの内容

1年生から6年生までと一緒に遊べるもの（だれもが参加できるもの）にする。

他のグループのことも考えて、遊びを決定する。

安全面を考慮して、おにごっこ（ケイドロ）は行わない。

決定した会食場所は調整するので、掃除担当者より生徒指導部に知らせる。

④ あとしまつに関する注意

残菜とわりばし、弁当容器は決められた袋に入れ、5年生が給食室に持って行く。

⑤ 指導担当者も計画から共に参加し、適切なタイミングで助言を行う。

取組の課題・創意工夫『キーワード・・・調整』

縦割り活動は、赤・青・黄・緑の4色に、それぞれ1～15・16の班を作って活動する。班の人数は、10～15人とする。それぞれの班には2・3名の6年生がリーダーとして配置されている。しかし、責任感が希薄なリーダーや積極的な声かけが苦手なリーダーのもとでは、元気がありあまっている低学年の児童を上手にリードしきれていないケースも見られた。そこで、グループ確定前の連絡会において指導者がおたがいの担当する児童の情報を共有し、それぞれのグループで円滑な活動が実施されるようメンバーの調整を行っている。また、班編成は前期（4～10月）と後期（11～3月）の2期制として、いろいろな児童との触れ合いの機会が増やすとともに、活動が停滞しがちな班のメンバー構成を刷新して、グループの活性化を図れるようにした。

取組の成果（効果）『キーワード・・・協働』

- ・楽しい会にするために、いろいろな遊びを企画したり、賞状や宝探しの宝物を手作りしたりと、準備段階から6年生のリーダーは大活躍だった。
- ・計画や準備には6年生だけでなく5年生も積極的に参加し、協働の姿勢で下級生のために活動することができた。これらの活動の中で、高学年としての自覚も芽生えた。
- ・さまざまな個性の児童が集まる異年齢集団での活動を通して、自分本位の行動をおさえて周囲の人々に対する配慮ができるようになるとともに、集団への帰属意識を高めることができた。
- ・相手の気持ちを理解しようとする態度が育ちつつある。やさしい態度で人に接する場面が増えた。
- ・「自分のことをわかってくれる友だちがいますか？」という道徳アンケートに、77%の児童が「そう思う。」16%の児童が「だいたいそう思う。」と回答していることから、いろいろな集団の中に安心できる居場所を見つけることができている児童が多いのではないかとと思われる。

今後の展開『キーワード・・・継承』

児童会執行部の引継ぎとともに、縦割り班におけるリーダーを交代する。縦割りそうじも5年生が実質的なリーダーとなり、6年生が果してきた役割を担う。これまでの6年生の働きを肯定的に評価し、成果を明らかにすることで、4・5年生の心に「次は自分達がんばる番だ。」という自覚をもたせ、次期リーダーとしての責任感を高める。

他校へのアドバイス『キーワード・・・支援』

指導者には、5・6年生の児童がリーダーとして集団の中で輝けるように、それぞれがもつ個性を見抜き、適切なタイミングで助言を行うなどの舵取りが求められると考えるが、楽しい会を共に作り上げる喜びを体感できる取組になっていると思う。

指定校番号	28061	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	利田 政美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童主体の縦割り活動による自己肯定感の醸成』

取組のねらい『キーワード：自己肯定感の醸成』

・本校の児童には、友人のちょっとした言動から暴力行為を生起させたり、人間関係を崩したりする傾向が見られる。また、集団になじめず、集団内で自己の能力を十分に発揮できていない児童も少なくない。その主要因として、自己に対する評価を肯定的に捉え切れていないといった自己肯定感の低さが挙げられる。そこで児童一人一人の自己肯定感を意図的、計画的に育てていくこととした。

取組の具体的内容『キーワード：児童主体の縦割り活動による自己肯定感の醸成』

【ねらい】

- ・ 上学年児童は下学年児童をリード、サポートし、上学年としての意識や自己肯定感を醸成する。
(主体性、有用感、達成感等の醸成による自己評価の向上)
- ・ 下学年児童は上学年児童からのサポートを受け、上学年をモデルとして良い言動を身につける。
(親和性、有用感、受容感等の醸成による自己評価の向上)

【内容】

- ・ 縦割り活動
 - ・ 1年生を迎える会、体力テスト、縦割り掃除、縦割り遊び等。
縦割り班16班がリーダー(6年生)の指示のもと、協力して活動を行う。
開始時の挨拶や仕事内容の確認、終了後のふり返りを徹底する。
班の頑張りを掲示するとともに、表彰する。
- ・ 異学年交流
 - ・ 遠足、合同授業、児童相互の授業参観、絵本の読み聞かせ、全員遊び等。
上学年が下学年をリード、サポートしながら、複数学年と一緒に活動をする。
相互評価を行い、その評価内容を見える化する。



児童の感想より

○私は縦割り活動のリーダーとなって、グループをまとめることができるか心配だった。1年生の子に、「ほうきの先が悪くならないように、優しくスーとはいってね。」と言うと、1年生の子が、「うん、わかった。ありがとう。」と言ってくれた。その子はとても上手に掃除をすることができるようになった。私は、他の学年と協力をして、毎日学校がきれいになることで、幸せを感じている。(6年児童)

○僕は同じ班の2年生の子にどう接してよいのかわからなかった。指示を出しても言うことを聞いてくれなかったの、いつもけんかになっていた。ある時、優しく声をかけて、側で掃除をして見せ



ると、2年生の子から、「ありがとう。僕、リーダーのことが好きだよ。」という言葉が返ってきた。相手の気持ちを考えて接すれば良かったんだと思った。(6年児童)

○僕は、6年生が低学年の子に優しく教えてあげたり、みんなが嫌がるような仕事を進んでしたりしている姿を見て、「6年生はすてきだな。かっこいいな。」と思う。僕も同じ班の6年生のような人になりたい。(5年児童)

○私は大縄跳びが苦手だ。入るのがとてもこわい。でも、いつも6年生の人が側に来て、手をつないでくれる。他の学年の人が声をかけてくれる。頑張ってみようかなと元気が出る。(1年児童)



取組の課題・創意工夫『キーワード：異学年によるかかわり・評価の見える化』

<創意工夫>

- ・児童会委員を中心とした上学年が、各班長に指示を出し主体的な活動を促すことにより、上学年児童の有用感と達成感の醸成が図れるようにした。
- ・活動後の各班でのふり返りにおいて肯定的な評価を意識させることにより、上学年児童に受容的態度、相手意識等の他者に対する肯定的な意識の醸成を図った。また、下学年児童に上学年児童からしっかりと受容されているといった実感を持たせるよう努めた。
- ・他学年の児童からの多角的な視点による評価を行い、評価内容を掲示する等、評価の見える化を図った。

<課題>

- ・担当教職員による指導と支援が、リーダーとなる児童の特性を十分に捉えきれていない場面があった。
- ・上学年児童によるサポートが、下学年児童に十分に理解されない場面があった。
- ・上学年児童に、望ましい声かけや関わり方等、コミュニケーションの方法を身につけさせる必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：児童の主体性と肯定的な自己意識の向上』

- ・活動を重ねるごとに、6年生に、自分達が活動を運営していくといった自覚と責任感が高まってきた。
- ・縦割り班の各リーダーが、低学年児童の理解度を意識した声かけや指示が出せるようになった。
- ・上学年児童は、下学年児童のよきモデルとなるよう意識して行動するようになった。
- ・下学年児童は、上学年児童に対する親和性を強めるとともに、受け止められている、大切に思われているといった実感を育むことができた。

自己肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
87%	93%

共感的人間関係をもつ児童の割合

6月	12月
90%	92%

今後の展開『キーワード：異学年活動の充実』

- ・これまでの既存の縦割り活動の改善、充実を図るとともに、児童会集会や学校行事等における縦割り活動の場を増やし、より計画的、系統的な活動とする。
- ・校内における異学年活動や保育所、幼稚園、中学校等との交流活動にも取り組む。

他校へのアドバイス『キーワード：異学年活動の有効性』

- ・各校の児童や生徒の実態に応じた縦割り活動、異学年活動を日常の教育活動に取り入れることは、人間関係及び集団内における自己イメージの固定化した同学年では育むことが難しい主体性や有用感等の肯定的な自己意識を醸成することに有効である。

指定校番号	28066	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中小学校	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	杉 知美
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『和を大切に，輪を広げよう～思いやりでつながり深まる学校へ～なかよし班活動』

取組のねらい『キーワード 人間関係づくり』

- 異年齢集団による交流を促し，年齢が異なる児童同士の間人関係を築くことができるようにする。
- 異年齢集団活動を通して，高学年のリーダーシップや思いやり，問題解決力を高めるとともに，下級生からの信頼を得ることで自信をもたせる。
- 異年齢集団活動を通して，下級生の上級生に迫ろうとする努力や仲間をサポートする力を高めるとともに，上級生に対するあこがれをもたせる。

取組の具体的内容『キーワード 共感的人間関係の育成』

1年生から6年生でなかよし班（縦割り班）を作り，年間を通して一緒に遊んだり掃除を行ったりする。（各学年2人～3人ずつ，45班）

1. なかよし班朝会・・・班のプラカードを作ったり，なかよし班遊びの内容を考えたりする。

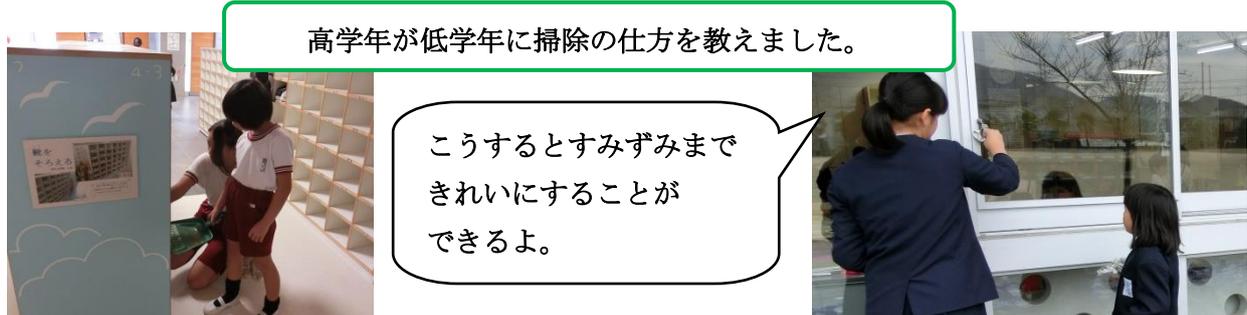


班のみんなで相談して，プラカードを作りました。

2. なかよし班遊び・・・休憩時間になかよし班で一緒に遊ぶ。



3. なかよし班掃除・・・班長を中心に役割分担を行い，掃除をする。



取組の課題・創意工夫『キーワード リーダー性の育成』

【取組の創意工夫】

- なかよし班（縦割り班）のメンバーを年間通して固定し、児童同士のかかわりが密なものになるようにする。
- リーダーである6年生の中に、上級生としての役割に不慣れな児童もいるが、教師のかかわりは必要最低限にし、リーダー性の育成を図る。

取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感・自己有用感の高まり』

【児童の感想より】

- ・いろいろな学年の人と仲良くなれてうれしい。（1年生）
- ・他の学年の人と一緒に遊んだり掃除をしたりして、仲を深めることができた。（3年生）
- ・最初は話しかけても会話が続かなかったけれど、何度も一緒に活動していくうちに、いろいろな話ができるようになってきた。（5年生）
- ・今までは同級生とのかかわりが主だったけれど、他学年の友だちもできて、普段から交流できるようになった。（6年生）
- ・いつもは人に任せることが多かったけれど、リーダーを経験したことが自信になり、いろいろなことに自分から挑戦してみるようになった。（6年生）

【学校評価より】児童アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
自分にはよいところがありますか。	78.0%	84.9%	+6.9
自分の良さは周りの人から認められていると思いますか。	71.5%	76.9%	+5.4



- 年間を通してなかよし班のメンバーを固定したことで仲間意識が生まれ、校内で出会ったときに声を掛け合ったり、自発的に一緒に遊んだりするようになり、児童同士の密なかかわりがもてるようになった。
- リーダーとしての役割に不慣れな6年生児童がいたが、会の進行や遊び決めなど児童が中心に行えるように教師のかかわりを最小限にした。最初はうまくいかないこともあったが、何回か活動を経験するうちに、不慣れだった児童も普段見せない上級生としての姿を見せるようになり、児童の自発的な活動へとつなげることができた。

【学校評価より】児童アンケートの自己有用感に関する項目の肯定的評価

項目	5月	10月	差
みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	85.9%	90.3%	+4.4



- なかよし班での掃除など、集団の一員としてそれぞれが役割を果たしていくことで、児童の自己有用感を高めることができた。

今後の展開『キーワード さらなる充実を』

- 【今年度】6年生ありがとうの会・・・2月に行う「6年生ありがとうの会」では、1年間活動を共にしたなかよし班でゲームを行う。それまでグループを引っ張りまとめてくれた6年生に対して、感謝の気持ちを伝えられるような機会にしていく。
- 【来年度】なかよし班活動の充実・・・継続的な取組となるように計画的に活動を進めたり、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるために効果的な活動を取り入れたりして、より充実した取組となるように工夫していく。

他校へのアドバイス『キーワード つながり』

児童の自己肯定感や自己有用感を高めていくために、異学年交流は有効な手段であった。また、年間を通して異学年交流の取組を進めたことも、児童同士のつながりを深めていくためには、大変有効であった。

指定校番号	28078	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立大州中学校	校長	大下恵子	生徒指導主事	山田久司
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『体育祭や文化祭・生徒会活動を通じて』

取組のねらい『キーワード 上級生から下級生へ』

縦割りブロックによる、上級生から下級生への指導を通じて、上級生のリーダー性や自尊感情の育成・向上を図る。

取組の具体的内容『キーワード 生徒自身の自主性を育成』

- 体育祭では、応援団を通じて上級生が応援を行う内容や方法を考え計画を立てた。そして、下級生への指導・アドバイスを行いまとめた。また、応援歌の歌唱指導や応援時でのかけ声指導も団長を中心に上級生全員で指導した。
- 文化祭では、縦割りのクラスが体育館に集まり、それぞれのクラスの課題曲や自由曲を相互に鑑賞し、上級生のパートリーダーを中心に下級生に指導やアドバイスを行い、縦割り賞のダイヤモンド賞を目指した。
- MSV（ボランティア活動）は、生徒会を中心に声かけを行った。

取組の課題・創意工夫『キーワード 上級生の意識向上』

- 体育祭の応援団では、各色別のホワイトボードを用意し、練習での出来映えや次回への意気込みを全校生徒が見える場所へ掲示することで、上級生の意識向上につながった。
- 応援団長やパートリーダーに具体的な動きの確認（日程確認や動きの内容、音楽科による専門的アドバイス等）を行うことで、生徒自ら取組内容を理解することができ、仲間とともに下級生への指導・アドバイスができるようになった。



- MSV での取組を生徒会だよりや生徒朝会、代議員会で報告・呼びかけを行った。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の高まり』

- 体育祭の応援団や文化祭の合唱で、下級生への指導・アドバイスを行うことで、自分たちでできたという自信につながり、自己肯定感や自尊感情が高まっていった。（学校評価アンケート結果より自己肯定感 1 年生 1 回目 59%・2 回目 62% 2 年生 1 回目 67%・2 回目 72% 3 年生 1 回目 72%・2 回目 79% 自尊感情 1 年生 1 回目 56%・2 回目 64% 2 年生 1 回目 64%・2 回目 69% 3 年生 1 回目 71%・2 回目 82%）

- MSVを行うことで、学校がきれいになっていく行程を実際に見ることができる。また、ボランティア手帳にチェックを受けることで、評価してもらえている場面ができた。



今後の展開『キーワード いつも通り』

- 行事のみの動きではなく、常日頃からどんな場面でも上級生から下級生による指導・アドバイスができるような場面を生徒会中心に考え、設定していく。例えば、月に1度の朝会で無言移動・無言集合の評価を見える位置に掲示するとともに、アドバイスも掲示する。

他校へのアドバイス『キーワード 年間を通して』

- 年間の学校行事を通して、上級生から下級生による指導・アドバイスができる場面を設定することで、上級生の自己肯定感が高まり、自信につながっていくと考える。

指定校番号	28098	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	左田 和幸	生徒指導主事	岡 真吾
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『生徒の主体的な活動を通して生徒の自己指導能力を育成する』

取組のねらい『キーワード 学校行事を通じた主体的な取組』

○ 昨年の体育大会では縦割り活動に取り組んだ。今年度は4月のスタートから学校行事における縦割り活動を計画し、1年を通して縦割り活動を行った。多くの活動の場で、上級生がリーダーとなり後輩を思いやり、後輩が先輩を尊敬しながら活動を進めていくことで、共感的な人間関係を育むとともに自己存在感を与え、自己指導能力の向上につなげた。

取組の具体的内容『キーワード 主体的な縦割り活動』

- 1年を通じた縦割り活動
 - ・4月 各組団に別れ、1年間の目標、スローガンの決定
 - ・5月 縦割りでの新入生歓迎遠足
 - ※ 雨天のため、遠足は中止になったが、体育館で団ごとにスローガンを発表したり生徒会主催のレクリエーション活動を行ったりした。スローガンの発表については、3年生のリーダーを中心に発表の仕方まで工夫し、それぞれの思いを表現した。生徒会レクリエーションでは、全生徒、全教職員が一緒に取り組んだことによって、学校全体の連帯感が高まった。
 - ・7月 体育大会に向けて、縦割りでのダンス練習
 - ・8、9月 縦割りでの体育大会の取組
 - ・10月 縦割りでの文化祭の合唱練習
 - ※ 各組団で3年生が1、2年生の指導をしていくという流れができた。3年生が後輩の前に立って実際に歌ったり、助言していくことで、1年生は歌うことへの抵抗感をなくし、先輩と共に中央中の歌う伝統を守ろうとする気持ちが生まれた。



各組団のスローガン発表



生徒会レクリエーション



結団式



先輩から後輩への校歌指導



ダンス指導



体育大会

取組の課題・創意工夫『キーワード 新たな取組』

- 昨年からスタートした縦割り活動を年間を通じて行う取組とした。
 - ・生徒会や3年生の団リーダーを中心に取り組み、教員はできるだけ指示を出さず、生徒が練習方法を考えることや教え合うことで行事への取組の意欲を向上させた。
 - ・体育大会や文化祭では団ごとに、その日の評価や振り返りを3年生の団リーダーがホワイトボードに記入し、生徒玄関で毎日伝達できるようにした。
- 課題は、リーダーの成長はいろいろな場面で感じることができるが、その他の生徒（フォロワー）の成長に向けて教員がどんなアドバイスをしていけば良いのか、どんな取組が必要なのかを考えていかなければならない。
- 生徒会が中心になって行った「新たな取組」として、5月に新入生歓迎遠足を計画した。どのように交流すれば、学年関係なく交流できるかなどを考え、全生徒と全教職員合同のレクリエーションを計画し、実施した。課題は、生徒も教員も一緒になって全体で活動できたのは、この1回だけだった。生徒の感想でも教員からの意見でも、こんな機会を増やすことができれば、生徒同士、生徒と教員の信頼関係も高まるのではないかと考えている。

取組の成果（効果）『キーワード 自己指導能力の向上』

- 4月から計画的に縦割り活動を取組に取り入れたことで、お互いの信頼関係も高まり、人間関係のトラブルが減少した。昨年、2件の暴力行為があったが、今年は0件で大きなトラブルがなくなった。毎年、部活での先輩後輩のトラブルがあるが、これも今年は0件である。お互いを大切にし、認め合える集団になってきたことで、問題行動の減少につながり、落ち着いた学校生活を送っている。
- 生徒意識アンケートにおける「学校行事・生徒会行事に満足している」という項目に対し、肯定的な回答が、5月時は79.5%であったが、12月には88.7%と向上した。行事後の生徒の感想においても、自分のためにも仲間のためにも良い行動をしようと考えている生徒も増え、自己指導能力の向上につながっている。
- 生徒自らが活動を企画したり、行事を運営していくことで、規範意識が高まり、自らルールや時間を守ろうとする生徒が増加した。生徒意識アンケートの「授業が始まる2分前には、自分の席に座り、次の授業の準備ができている」という項目に、93.8%の生徒が「できている」と肯定的に回答している。

今後の展開『キーワード PDCAサイクル』

- 生徒が主体的に参加していく取組を始めて2年が経った。定着し高まり続ける取組もあれば、改善していくことを考えなければならない取組もある。現状に満足せず、PDCAサイクルに基づいた取組み改善を組織的に行っていくことで、本物の文化になっていくのではないかと考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 共通理解と行動の一元化』

- 生徒が行事に主体的に取り組んでいくためには、教職員の支援も重要になる。すべてが生徒任せになってしまうと間違った方向に行くことやトラブルになることもある。どのような支援が必要か、支援と指導の基準を明確にし、どこまで支援しどこから指導していくか、教職員で連携しておくことが大切である。

指定校番号	28101	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	山本 泰昌	生徒指導主事	山口 司
-----	-------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『生徒同士の関わりを増やし、自主性を育てる生徒会活動』

取組のねらい『キーワード 生徒会活動の活性化』

・委員会活動，3年を中心とした縦割り集団活動，生徒会執行部や部活動を中心とした自主的な活動を仕組む中で，生徒の自己有用感を高め，授業や行事参加の意欲や態度及び豊かな心の育成を図る。

取組の具体的内容『キーワード 生徒主体の活動』

・委員会では，生徒会執行部を中心に取組の企画を行い，準備・実施した（昼の放送「ハッピータイム」，図書委員会「ビブリオバトル」，保健委員会による生徒朝会での発表，3年生を送る会の飾り付け・お礼メッセージ等）。

・体育祭を皮切りに縦割り集団による活動や関わりを仕組んだ（体育祭での応援団・行進練習，校歌練習の取組と成果発表，文化祭での合唱交流，3年生への御礼のメッセージ等）。

・部活動による朝のあいさつ運動・下校放送，執行部による朝会等の時間厳守の整列の取組を行なった。

取組の課題・創意工夫『キーワード ピア・サポート的人間関係』

・言われた事は素直にやる生徒が多いが自ら考えて創意工夫したり関わりあう取組が少なかった。また，「自分の良さはまわりの人から認められている。」という項目の評価は高くない。

・そこで，上級生が自分たちの学校や自分自身に自信と誇りを持つとともに，友人や後輩へ思いやりをもって接することのできる心と力を育み，また後輩たちには1年後・2年後の自分の目指す姿をイメージできるように，生徒会執行部や3年生を中心とした活動を仕組んだ。

・生徒会行事や学校行事等において，3学年のリーダーのみでなく2学年の中でリーダーを選出し，学年リーダーとして自ら考え行動させ，リーダー以外の生徒もフォロワーとしての意識を持たせた。

取組の成果（効果）『キーワード 生徒自らが考え行動できる』

・先輩の一生懸命な姿に憧れを抱き，新年度の生徒会役員に立候補した生徒が多くいた。上級生は，学校のため・後輩のためという意識が向上し，生徒会執行部の生徒や部活動のリーダーなどを中心に，最上級生としての誇りを持って行動できる生徒が増えた。地域の方からも，道路に散乱していたゴミを拾っていた生徒や，気持ちの良いあいさつをする生徒の姿をほめていただいている。「校内で積極的にあいさつをしている。」という割合は9割を超えている。

今後の展開『キーワード 共感的人間関係による学習意欲の向上』

・日々の授業，係活動，委員会活動，行事の取組み等すべてにおいて，同級生および先輩・後輩の関わりあいの中で支えたり支えられたり，励ましたり励まされたりする関係を築くことで，人と関わること・学びあえることが楽しいという前向きな心を育て，学習意欲の向上にもつなげていく。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒の実態の把握と教職員の意識』

・生徒の良さや課題を教職員が共通認識し，日常の学校生活や授業・行事などにおいて，課題の改善を目指す工夫をするとともに，生徒の良さを生かした活動を仕組んでいく。

・日ごろの小さな工夫が，大きな行事の成功や委員会活動等の活性化，生徒（学校）全体の変化へとつながっていく。

★部長会～各部の挨拶運動



★体育祭～縦割り集団の取組



★図書委員会～ビブリオバトル



★生徒会の取組のまとめ

大野東中 校訓：友あり声あり意気あり

学級委員会
 <ノ・チ・ム・ゼ>
 ・金曜日の午前中にチャムを止め生活ね。
 ・着席点検
 ⇒ 学習環境づくり、時間意識は動く ⇒ 共に学ぶ仲間への思いやり

容儀検査
 ・金曜日の帰りのSHRに容儀検査を行う。
 ・自分がどこを違反しているかを把握する。
 ⇒ 自分が集団の中にいる意識を持つ。
 ⇒ ルールを守る者が安心できる環境づくり

生徒会 スローガン
創造 一人一人が輝ける学校
 「命の大切さを考える日」の集会を中心に、「命の大切さ」や「お互いを大切にすること」について考え、活動している。
 ・ハッピータイム ⇒ お互いが認めあえる雰囲気づくり
 ・行事や委員会活動 ⇒ 協力しあう学校

命の大切さを考える日
 ・各クラスでのスローガン発表
 ・いじめ撲滅宣言
 ・いじめの体験談
 生徒からの感想
 自分らの目標
 いじめの問題を自分のこととして身近に考えよう

今後の課題
 ・ハッピータイムの活性化
 行事後の感想・先生・生徒への呼びかけ
 ・「命の大切さを考える日」の話し合いの深化
 ・校歌⇒大きな声で自信を持って歌うこと
 ・一人一人が自分のこととして考えられる話し合い
 ・練習方法の工夫・声を出す雰囲気づくり

生徒総会
 各クラスの長さを確認し、生徒会スローガンの決意
 ・クラスアピール
 生徒全員が生徒会の一員であることを自覚し行動しようと呼びかける。疑問に思うことに一つ一答え、生徒も安心して生活できるようにした。

保健・整美委員会
 <保健委員会>
 ・ハロー・ポイントを活用した病気の予防や薬物乱用防止についての発表
 ⇒ 生徒が健康に過ごせる学校づくり
 <整美委員会>
 ・花植え
 ・掃除道具の整美
 ・大掃除の際のワックスかけ

体育文化・図書委員会
 <体育文化委員会>
 ・体育祭や文化祭の運営
 ・ボールの貸し出し
 <図書委員会>
 ・ビブリオバトル
 おすすめ本の紹介

体育祭
 ・縦割り対抗で行われる。
 ⇒ 上級生しっかり教える
 下級生 きっちり身に付ける
 団結して行動することができる。
 (例)行進によく現れる。
 <体育祭終了後>
 ・くやしかったことやうれしかったこと等を、共にわかちあう。

生徒朝会
 ・執行部及び学級委員会中心に整列
 ・体育館廊下での執行部の呼びかけと放送
 ・校歌の練習
 ⇒ 自分たちの校歌を誇りをもって歌える学校づくり

指定校番号	28102	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立野坂中学校	校長	植松寛雄	生徒指導主事	川本 宏
-----	------------	----	------	--------	------

取組事例名 『自己有用感を高める縦割り集団の取組』

取組のねらい『キーワード 自己有用感』

行事（体育大会、文化祭）において、縦割り組集団の取組を仕組むことで、3年生や各クラスのリーダーを中心に取組を進め、クラスや組集団の役に立った、クラスや組集団がまとめることができたなどの自己有用感を高める。

取組の具体的内容『キーワード リーダーの育成』

○体育大会では、縦割り種目を増やし、組集団で練習する機会をつくり、練習のときから3年生がリーダーになって1・2年生を引っ張っていった。応援合戦では各クラスの応援団長が組集団の団長に協力して、独自の応援を考え、大変盛り上がった応援合戦をした。また、服装や態度、入場行進に至るまで、随所に3年生がリーダーシップを発揮して1・2年生を指導していった。

○文化祭では、各学年の合唱コンクールだけでなく、組集団でも行い、練習のときから3年生のパートリーダーを中心とした練習をしていった。



取組の課題・創意工夫『キーワード 日常生活につなげる』

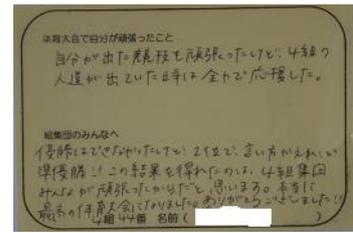
体育大会では、全体練習が始まる前に組集団の結団式を行った。応援団長が決意表明し、縦割り集団としての団結力を高める最初の取組である。体育大会終了後には解団式を行い、組集団の振り返りや応援団長のコメントなど、生徒それぞれの集団としての意識や、リーダーの自己有用感が高まる取組である。また、縦割りの取組を入れた行事ごとに、応援に来ていただいた方が誰でも書ける応援メッセージボードを設置したり、3年生やリーダーに対して全生徒がメッセージカードにコメントを書き、教室や掲示板に掲示したりしている。



課題としては、行事の時には生徒も大変盛り上がって取組むことができたが、これを日常生活にもつなげていく必要がある。日常生活の中でもリーダーが育ち、リーダーを中心としての集団づくりをしこんでいけば、行事で高まってきた自己有用感が日常生活でもリンクしていくことにつながる。

取組の成果（効果）『キーワード 見える化』

行事だけでなく、生活のあらゆる場面のことを校内のあちこちに掲示している。生徒や保護者も立ち止まってみている光景がよく見られる。掲示されているものは生徒のものが多く、感謝の気持ちや、ほめることなどの内容がほとんどで、このような掲示物を通じて生徒の自己有用感が高まっている。



今後の展開『キーワード 新たな取組へ』

今後は日常生活の中に縦割りの取組を仕組んでいこうと考えている。縦割りそうじや縦割り挨拶運動など、できそうなところから少しずつ膨らましていきたい。生徒会活動の中にも縦割りの取組を随所に盛り込み、生徒自ら自治的活動を日常的にできるようにしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 掲示物の効果』

校内のあちこちに自分たちが認められている、役に立っている、ほめられているなどの掲示物が掲示されていると、生徒同士・生徒と教師の関係が良くなり、生徒の自己有用感も高まっていく。掲示する場所を工夫し、掲示物を工夫して、生徒の自己有用感を高めるひとつの取組として活用されたいかがだろうか。



指定校番号	28105	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野中学校	校長	米谷 剛	生徒指導主事	前田 大輔
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『心の交流会』

取組のねらい『キーワード おもてなしの心でつくる異年齢集団』

- 熊野中学校の伝統を引き継ぐ。
- 3年生が職場体験学習や修学旅行等で学んだ接遇について、1・2年生に伝える。
- おもてなしの心を全校生徒と保護者が共有することで、集団として温かい雰囲気をつくる。

取組の具体的内容『キーワード 生徒、保護者、教員が協力』

- 年度当初の4月に行われるPTA総会の日に、中学校のグラウンドで生徒、保護者、教員で協力して、昼食にバーベキューを行う。
- メンバー構成は、1年生は各クラスを9グループ、2・3年生は各クラスを6グループに分け、縦割りの異学年集団とし、それらの保護者と担当教員とする。
- PTA役員と3年生が2校時に準備をし、1・2年生は授業とする。
- 開会行事、閉会行事の運営は生徒会とし、各グループの運営は3年生とする。
- 後片付けは全員で行う。



取組の課題・創意工夫『キーワード 1年間を見据えた異学年集団』

- 全校生徒でバーベキューを行うので、準備、片付けがとても大変であるが、生徒、保護者、教員が協力することで、心の交流会を成功させようと努力する。
- 心の交流会で編成したグループを活用して、全校遠足や体育祭など1年間の学校行事に取り組む。
- 3年生が前年度の職場体験学習、修学旅行で学んだ接遇やおもてなしの心を、1・2年生や保護者に表す。
- 1・2年生は3年生を見て、見本となるべき先輩の姿を明確にする。

取組の成果（効果）『キーワード 3年生が引っ張る熊野中学校』

- 10月に実施した生徒アンケートの「学校に行くのは楽しいです」の質問に85.3%、「学校でみんなと一緒に活動するのは楽しいです」の質問に92.6%が肯定的な回答をした。
- 10月に実施した保護者アンケートの「子どもを安心して学校に通わせている」の質問に92.3%、「学校教育に関心を持ち、協力したいと思っている」の質問に78.1%が肯定的な回答をした。
- 3年生はリーダーシップを発揮することで、最高学年としての自覚と責任が芽生えた。
- 1・2年生は3年生の姿を見て、手本となる最高学年の姿を明確にした。

- 生徒、保護者、教員が協力し、一つの行事を成功させることで、信頼関係を築くことができた。
- 今年度は学年により、学級数が異なっていたので、縦割り集団の編成について苦慮していたが、基本となる集団が出来上がった。
- 生徒主体で行事を成功させることで、特に3年生は自信をもち、企画、運営する力が身についた。
- 遠足、体育祭、文化祭等、学校行事すべてにおいて、3年生がリーダーシップを発揮している。

今 後 の 展 開『キーワード 継続』

- 卒業式は、1・2年生が3年生に対して感謝の気持ちを伝える。
- 3年生の手本となる姿を1・2年生が引き継いでいく。
- 次年度も心の交流会を3年生主体で進めていく。
- 3年生主体となるために、保護者・教員が全力で支援していく。

他校へのアドバイス『キーワード 最初・準備が肝心』

- 生徒主体と言えど、保護者や教員が指導や援助をしないと、行事は成功しない。事前に生徒と打ち合わせを行うなどしっかりと準備し、何をどのようにすればよいか、生徒に対する指示を明確にしておく。
- 年度当初に1年後の理想の姿をイメージさせることで、学校全体で良いスタートを切ることができる。
- 成功体験をもたせることが、生徒の自信につながっていく。